

ORFEO D'OR

EDITA GRUBEROVA



Don Pasquale · Lucia di Lammermoor · Die Entführung aus dem Serail · Don Giovanni · Lucio Silla · La traviata · Die Fledermaus · Manon · Maria Stuarda · Linda di Chamounix · Roberto Devereux · Lucrezia Borgia · Norma · I Puritani · Ariadne auf Naxos

Live Recordings
1977 - 2010



KICC 1021-2 (ORFEO C857 1221)

<http://www.kingrecords.co.jp> King Record Co., Ltd. 1-2-3 Otowa Bunkyo-ku Tokyo 112-0013 Japan.



ドニゼッティ Donizetti (1797-1848):

歌劇《ドン・バスクワレー》(ドイツ語歌唱) Don Pasquale —

① 騎士はあのまなざしを [第1幕・ノリーナ] 6:49
 Quel guardo il cavaliere [1.Akt・Norina]
 sung in German as Vor jenen heißen Blicken ... Auch ich versteh die feine Kunst'

② 用意はいいわ [第1幕フィナーレ・ノリーナ、マラテスタ] 7:13
 Pronta son; purch'io non manchi [1.Akt・Norina, Malatesta]
 sung in German as 'Ich bin bereit'

ハンス・ヘルム(バリトン) Hans Helm, baritone
 エクトル・ウルボン(指揮) Hector Urbon, conductor
 録音:1977年10月24日 ミュルツツァーシュテーク国民劇場でのライブ

歌劇《ルチア》Lucia di Lammermoor —

③ あたりは静寂に包まれ…あの方はこの上もなく燃える情熱に [第1幕・ルチア、アリーサ] 8:06
 Regnava nel silenzio...Quando rapito in estasi [1.Akt・Lucia, Alisa]

④ 裏切られた父の墓で [第1幕・エドガルド、ルチア] 9:33
 Sulla tomba [1.Akt・Edgardo, Lucia]

チェスラヴァ・スラニア(アルト) Czeslawa Slania, alto
 ペテル・ドヴォルスキー(テノール) Peter Dvorský, tenor
 ジュゼッペ・パタネ(指揮) Giuseppe Patané, conductor
 録音:1978年3月23日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

モーツァルト Mozart (1756-1791):

歌劇《後宮からの逃走》Die Entführung aus dem Serail —

⑤ どのような責苦があろうとも [第2幕・コンスタンツェ] 9:34
 Martern aller Arten [2.Akt・Konstanze]

カール・ベーム(指揮) Karl Böhm, conductor
 録音:1979年6月15日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

歌劇《ドン・ジョヴァンニ》Don Giovanni —

⑥ お父様が危ないの…出て行って、ひどい人 [第1幕・ドンナ・アンナ、ドン・オッターヴィオ] 7:04
 Ah, del padre in periglio ... Fuggi, crudele, fuggi! [1.Akt・Donna Anna, Don Ottavio]

ジェリー・ハドリー(テノール) Jerry Hadley, tenor
 イヴァン・フィッシャー(指揮) Iván Fischer, conductor
 録音:1989年6月13日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

歌劇《ルーチョ・シツラ》Lucio Silla —

⑦ ああ、残酷な危険が [第2幕・ジュニア] 8:44
 Ah se il crudel periglio [2.Akt・Giunia]

アルノルト・エストマン(指揮) Arnold Östman, conductor
 録音:1991年1月20日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

ヴェルディ Verdi (1813-1901):

歌劇《椿姫》La traviata —

⑧ ある喜ばしい日 [第1幕・アルフレード、ヴィオレッタ] 3:57
 Un di felice, eterea [1.Akt・Alfredo, Violetta]

⑨ ああ、そはかの人か…花から花へ [第1幕・ヴィオレッタ、アルフレード] 7:49
 Ah, fors'è lui che l'anima ... Sempre libera [1.Akt・Violetta, Alfredo]

アルフレード・クラウス(テノール) Alfredo Kraus, tenor
 ピンカス・スタインバーグ(指揮) Pinchas Steinberg, conductor
 録音:1990年9月11日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

エディタ・グルベロヴァ(ソプラノ)
 EDITA GRUBEROVA (soprano)

ウィーン国立歌劇場管弦楽団・合唱団
 Chor und Orchester der Wiener Staatsoper

J.シュトラウス2世 J.Strauss, II (1825-1899):

喜歌劇《こうもり》Die Fledermaus —

- ① 侯爵様 [第2幕・アデーレ、合唱] 3:47
Mein Herr Marquis [2.Akt・Adele, Chor]

テオドール・グシュルバウアー(指揮) Theodor Guschlbauer, conductor
録音:1979年12月31日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

マスネ Massenet (1842-1912):

歌劇《マノン》Manon —

- ② さようなら、わたしたちの小さなテーブルよ [第2幕・マノン] 4:38
Allons! Il le faut ... Adieu, notre petite table [2.Akt・Manon]

- ③ 私が女王のように道を歩くと [第3幕・マノン、合唱] 5:32
Je marche sur tous les chemins [3.Akt・Manon, Chor]

- ④ 君! あなたでしたか? [第3幕・デ・グリュウ、マノン] 8:11
Toi! Vous! Oui, c'est moi [3.Akt・Des Grieux, Manon]

フランシスコ・アライサ(テノール) Francisco Araiza, tenor
アダム・フィッシャー(指揮) Adam Fischer, conductor
録音:1983年12月8日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

ドニゼッティ Donizetti:

歌劇《マリア・ストゥアルダ》Maria Stuarda —

- ⑤ ばら色の光が私に [第3幕・マリア、タルボ] 9:36
Quando di luce rosea [3.Akt・Maria, Talbot]

クルト・リドル(バス) Kurt Rydl, bass
アダム・フィッシャー(指揮) Adam Fischer, conductor
録音:1985年9月28日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

歌劇《シャモニーのリンダ》Linda di Chamounix —

- ⑥ この心の光が [第1幕・リンダ] 5:33
Ah! tardai troppo...O luce di quest'anima [1.Akt・Linda]

ブルーノ・カンパネッラ(指揮) Bruno Campanella, conductor
録音:1997年10月19日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

歌劇《ロベルト・デヴェルー》Robert Devereux —

- ⑦ 行け! 死がお前を頭に抱えた [第2幕フィナーレ・ノッティンガム、ロベルト、エリザベッタ、合唱] 5:53
Scellerato!...Va! La morte sul capo ti pende [Finale 2.Akt・Nottingham, Roberto, Elisabetta, Chor]

ラモン・ヴァルガス(テノール) Ramón Vargas, tenor
ユ・チェン(バリトン) Yu Chen, baritone
マルチェッロ・ヴィオッティ(指揮) Marcello Viotti, conductor
録音:2000年12月7日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

歌劇《ルクレツィア・ボルジア》Lucrezia Borgia —

- ⑧ 何と美しい! [プロローグ・ルクレツィア、アルフォンソ、ルスティゲッロ] 5:37
Com' e bello! [Prolog・Lucrezia, Alfonso, Rustighello]

ミケーレ・ベルトウージ(バス) Michele Pertusi, bass
ペーター・イエロジツ(テノール) Peter Jelosits, tenor
フリードリヒ・ハイダー(指揮) Friedrich Haider, conductor
録音:2010年10月2日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

ベッリーニ Bellini (1803-1835):

歌劇《ノルマ》 Norma —

- ⑨ ご覧なさい、ノルマよ [第2幕・ノルマ、アダルジーザ] 10:14
Dehl con te .. Mira, o Norma [2.Akt・Norma, Adalgisa]

ナディア・クラステヴァ(メゾ・ソプラノ) Nadia Krasteva, mezzo-soprano
マルチェッロ・ヴィオッティ(指揮) Marcello Viotti, conductor
録音: 2005年2月5日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

歌劇《清教徒》I Puritani —

- ⑩ ああ！寺院へ行ってください [第1幕・エルヴィーラ、ブルーノ、リッカルド、ジョルジョ、合唱] 7:59
La dama d'Arturo... Oh! vieni al tempio [1.Akt・Elvira, Bruno, Riccardo, Giorgio, Chor]

ルーベン・ブロイトマン(テノール) Ruben Broitman, tenor
カルロス・アルヴァレス(バリトン) Carlos Álvares, baritone
エギルス・シリンズ(バス) Egils Sillins, bass
マウリツィオ・ベニーニ(指揮) Maurizio Benini, conductor
録音: 1996年12月10日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

R.シュトラウス R. Strauss (1864-1949):

歌劇《ナクソス島のアリアドネ》 Ariadne auf Naxos —

- ⑪ 偉大な王女様 [第1幕・ツェルビネッタ] 12:20
Grossmächtige Prinzessin [1. Akt・Zerbinetta]

ホルスト・シュタイン(指揮) Horst Stein, conductor
録音: 1996年4月20日 ウィーン国立歌劇場でのライブ

エディタ・グルベローヴァ(ソプラノ)
EDITA GRUBEROVA (soprano)

ウィーン国立歌劇場管弦楽団・合唱団
Chor und Orchester der Wiener Staatsoper

エディタ・グルベローヴァー—絶対的例外

ウィーン国立歌劇場でエディタ・グルベローヴァがどれほど活躍したかは、統計で裏付けられる。1970年2月にウィーン国立歌劇場にデビューして以来彼女は、助演を含めると、47の役で690を超える上演に出演した。たいへんに多い数であるが、だからといってこの歌手の経歴において特別な意味をなすものではないだろう。ウィーン国立歌劇場に40年以上出演した歌手は他にもいる。たとえばブラシド・ドミンゴ。ただしこの素晴らしいテノールは(細かいことを言っている類稀な芸術家の卓越した活動を軽く見ようと思っている訳ではないことを予めお断りしておくが)、加齢と共に変質した声を持ち役を合わせていった。後年になると高い音を必要とする役からもっと楽な音域の役に移ったのだ。グルベローヴァにはそのようなことは決して必要なかった。彼女の高音に翳りは感じられず、加齢は彼女の声になんら痕跡を残せなかったかのようだ。

失礼を承知でこの歌手の年齢を話題にしないでほしいが、グルベローヴァは50代、60代において、至難のベルカント役、たと

えば《清教徒》のエルヴィーラ、《シャモニーのリンダ》のリンダ、《ロベルト・デヴェルー》のエリザベッタ、さらにはベッリーニの《ノルマ》のタイトルロールのような多くの女声歌手たちからベルカントの分野で最も難しいと見なされているような役で、聴衆から熱狂的な喝采を受けたし、各紙を絶賛の評に導くことができた。そればかりか、グルベローヴァは、声楽的技術を理由として、彼女がレパートリーにしている役を棄てることは決してなかった。このようにしてグルベローヴァは、36年間の長きに渡って、至上の《ナクソス島のアリアドネ》のツェルビネッタをウィーンだけで100回もの上演で歌い、また31年以上、およそ90回の上演において、狂気に陥ったルチアで聴衆の息をのませた。

2008年、ヴィルヘルム・ジンコヴィッツはオーストリアのプレッセ紙に、グルベローヴァが歌ったツェルビネッタについてこう書いている。「彼女は依然としてかつてのように正確に柔軟に歌っている。しかも気品と、とりわけ共感できることに、自己皮肉を増した。コロラトゥーラの歌はそのまま保たれ、リリコヤド

ラマティコの声に向かうことはなかった。ことに伝説的なまでの安定した高音は一寸たりとも失われていなかった」。2003年にウィーン国立歌劇場でグルベローヴァのルチア25周年記念展が開催された時、当時の総監督、イアン・ホーレンダーはこう書いている。「彼女はいまだに何でも歌うし、技術的に変わりはないどころか、良くなっていると言ってもよい。エディタ・グルベローヴァは絶対例外だ。オペラ史においてルチアを25年以上歌った者は、彼女より劣った歌手にしてもいなかったし、ましてやグルベローヴァに比肩する程の歌手では誰もいなかったではないか!」(ウィーナー・ツァイトUNG)

かつてのウィーン国立歌劇場の監督の称賛に付け加えることはない。もっともルチアを25年以上歌った歌手が他にいないという主張は間違いだが、オーストラリア出身のコラトウラ・ソプラノ、ジョン・サザーランドはこの役を29年レパートリーに持っていた(これについても今やグルベローヴァはサザーランドを上回ってしまった!)。もっとも、こうした比較がまた、このブラティスラヴァ生まれの歌手がずば抜けていたことを強調することになる。というのも、サザーランドは歌手として

の晩期には、ルチアを少しばかり歌いやすく歌っていたからだ。彼女の夫で指揮者であるリチャード・ボニングの計らいで、いくつかの曲が移調された。そうした「特別な状況のための楽譜」は、グルベローヴァには決して必要なかった。正反対に彼女が主要な役の造型をさらに熟成させ緻密に作り込んでいることに人々は気付かされるのだ。

1976年、カール・ベームが指揮した新制作のR.シュトラウス《ナクソス島のアリアドネ》(初日の録音がORFEOからCDで発売されている)のツェルビネッタによって、エディタ・グルベローヴァの人気は、ウィーンだけではなく国際的に爆発した。これで彼女が小さな役を歌う時期は終わった。1995年、グルベローヴァはハンプルクの新聞デイ・ヴェルトヴォッヘ紙にこんな話を寄せている。「私がブラティスラヴァ音楽院の1年生だった頃、『この子は、これまでブラティスラヴァで聞いた中で一番のコラトウラ・ソプラノになるでしょう』と言われました。だからといって私はいい気になることなく、6年間自分を磨いていました。その後、故郷ブラティスラヴァで契約を求めたのですが、私を雇う人はいませんでした。そこで私は中央スロヴァキアの

地方(訳注:バンスカー・ビストリツァ)に行き、『地方都市のスター』になったのです。ヴェルディの《椿姫》からロウの《マイ・フェア・レディ》まで、ありとあらゆるものを歌いました。2年後の1970年にウィーンに行き、モーツァルトの《魔笛》の夜の女王を歌いました。私が主としてウィーンで歌ったのは幸運でした。この歌劇場は私にとって神々の住むオリュンポス山でしたから。稽古のために中に入れば、もうそれだけで満ち足りていました。なにせ神々とご一緒しているんですから。けれど私が歌わなくてはならないのは侍女や小姓の役ばかりで、私は不幸でした。それでも私は既に勉強机にツェルビネッタの楽譜を置いていたのです」。

実際のところ、たしかにグルベローヴァは、1970年2月7日にモーツァルトの《魔笛》の夜の女王でウィーン国立歌劇場にデビューし、その数日後には続いてオッフェンバックの《ホフマン物語》のオランピアを歌っている。だがこれら以外で、この若いコラトウラ・ソプラノの才能を扱う術を知っている人はほとんどいなかった。彼女が歌ったのは、ヴェルディ《ドン・カルロ》のテバルド、R.シュトラウス《エジプトのヘレナ》のヘレナ、ブッ

チーニ《蝶々夫人》のケイト・ピンカートン、ヴェルディ《椿姫》のフローラ、R.シュトラウス《薔薇の騎士》の帽子売り、《ナクソス島のアリアドネ》の水の精、モーツァルト《フィガロの結婚》のバルバリーナ、スメタナ《売られた花嫁》のエスメラルダ、マスネ《マノン》のブセット、J.シュトラウス2世《こうもり》のイダなどだった。その後、1973年にグルベローヴァは初めてツェルビネッタを歌い、1974年にはモーツァルトの《後宮からの逃走》のコンスタンツェ、1975年はロッシーニ《セヴィリアの理髪師》のロジーナが続いた。だがこうした初役も、結局のところ通常公演の中で埋もれてしまう。グルベローヴァは、既に先に引用した1995年のデイ・ヴェルトヴォッヘ紙とのインタビューでこう語っている。「ひょっとしたら、ウィーンでの初期の苦労こそが私の幸運だったのです。そのため、私は使い捨てにされることがなく、早すぎる時期に大きな役を歌いすぎてつぶれてしまうことがなかったのです。私が自分の声を揺ぎなくコントロールできるのは、ルトヒルデ・ベッシュ先生のおかげです。それに私は声をよく休ませます。私は時に年に50回歌いますが、これはとても少ないのです。できればその倍も歌えればよい

のですが、しかし私は自分の喉に無理をさせたくないのです」。

状況はようやく変わる。「1976年に私が初めてカール・ベームの指揮でツェルビネッタを歌うことになった時、マエストロは私にこう言いました。『お嬢さん、リヒャルト・シュトラウスがあなたを聞いたなら、彼は、この役はあなたのために書いたのですよ、と言ったことでしょう』」。グルベローヴァのツェルビネッタはセンセーショナルな絶賛になった。この《ナクソス島のアリアドネ》の初日で、世界的スター、グルベローヴァが誕生し、この時点から世界中の歌劇場が彼女に扉を開けた。ウィーン国立歌劇場ではこの桁外れのデビューの後、まだ二つの小さな、しかしそのわりには重要な役が続いた。R.シュトラウス《アラベラ》のフィアカーミと、同じくR.シュトラウスの《カプリッチョ》のイタリア人歌手である。だがこの二つ以外は当たり役ばかりだった。新たな「スター」は、ドニゼッティ《ドン・パスクワレ》のノリーナとしてウィーン国立歌劇場の楽旅でオーストリア各地に向かわされた。ORFの保管庫には、1977年、ミュルツツェーシュラクでの、愉快でユーモアに富んだ素晴らしいドイツ語上演の録音が保

存されている。ウィーン国立歌劇場では、第二のセンセーショナルなデビューが続いた。エディタ・グルベローヴァが初めてドニゼッティの《ルチア》を歌ったのだ（これに先立って彼女はグラーツで試唱していた）。1978年の初日の相手役は同じスロヴァキア生まれのペテル・ドヴォルスキーだった。そしてまた、ツェルビネッタの時と同じく、批評家たちはグルベローヴァの驚くべき歌唱を耳にして絶賛の声を上げた。

《ルチア》と同じ年、エディタ・グルベローヴァはリヒャルト・シュトラウスのオペラ《無口な女》のアミンタを初めて歌った。翌年の大晦日、彼女はオットー・シェンク演出の新制作のJ.シュトラウスの《こうもり》で、たいへんに滑稽なアデーレを歌って注目を浴びた。このセットに収録されている抜粋は1979年12月31日に映像も収録された録音から採られている。1980年、彼女はヴェルディ《椿姫》のヴィオレッタをウィーン国立歌劇場で初めて歌った。この役は1990年までに全部で23回歌っている。ここに収録されているのは、彼女がこの役をウィーン国立歌劇場で歌った最後の出演時のもので、アルフレード・クラウスが相手役である。

1971年にジャン・ピエール・ポネルの新演出でジュール・マスネの《マノン》が上演された時、グルベローヴァは既にマノンを歌うことを夢見ていた。この夢は1983年に実現し、映像収録もされた。もっともグルベローヴァはこの役を比較的稀にしか歌っておらず、ウィーン国立歌劇場ではたった9回だけである。

エディタ・グルベローヴァは、ドニゼッティの《マリア・ストゥアルダ》のタイトルロールを14回歌った（ここに収録されているのは、1985年の初演時の録音である）。モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》のドンナ・アンナは1986年から2005年までに13回歌っている。2005年の上演では、ウィーン国立歌劇場は、レパートリー公演では既に別のプロダクションに変更されていたにもかかわらず、彼女のために特別に大道具置き場から使い古されたゼッフィレリリのプロダクションを引っ張り出してきた。モーツァルト記念年の1991年、グルベローヴァはモーツァルトの《ルーチョ・シッラ》の上演にも7回出演している。ジュニアという極度に難しい役は、16歳の作曲者がミラノで、超絶技巧の歌で有名なアンナ・デ・アマチスのために書いたものである。

ツェルビネッタを別とすると（ちなみにこの

役は今回のセットでは1996年の通常公演でのものが収録されている。彼女がツェルビネッタを歌い始めて既に23年後、カール・ベーム指揮の新演出上演初日で大成功してから20年後のものである）、グルベローヴァはキャリアの経過とともにベルカント・オペラのレパートリーにますます重点を置くようになった。ウィーン国立歌劇場も、この分野におけるグルベローヴァのとてつもない業績を目の当たりにすることになった。ある時のベッリーニの《清教徒》の初日は、新聞では否定的に受け止められていたが、グルベローヴァだけは見事なエルヴィーラとして一人別格で絶賛された。たとえばペーテル・ヰイカはスタンダード紙にこう書いている。「なにはともあれ、自発的な感情によってコントロールされたグルベローヴァの至芸の声を数年ぶりに耳にできた。そして彼女は驚くべき絶妙さでウィーンファンに輝かしい業績を改めて見せ付け、それによってこの初日が記憶から消し去られることを阻止したのだ」。グルベローヴァはこの役を20回以上歌った。また彼女はこの役で、2000年のウィーン国立歌劇場へのデビュー30周年を祝い、ここで聞かれる録音と同様に、ウィーンの聴衆を喝采の

嵐へと導いた。

このベルカントのプリマドンナに対して、ウィーン国立歌劇場はさらに、1997年にドニゼッティの《シャモニーのリンダ》を、2000年に同じくドニゼッティの《ロベルト・デヴェルー》を上演計画に入れた。そして芸術監督のイアン・ホーレンダーは、この類稀な歌手のために特別に、普段は彼が認めない演奏会形式上演を喜んで例外とした。つまり、グルベローヴァのために二度も（訳注：2005年2月と2007年11、12月）ベッリーニ《ノルマ》の演奏会形式上演を催したのだ。プレッセ紙でゲルハルト・クラマーはこう述べている。「グルベローヴァは、彼女の数十年に渡るベルカント・オペラへの取り組みの頂点として、ノルマという役の途方もない要求を見事にこなしてのけた。感情が爆発する際のドラマティックな力感から、極めて繊細で感動的なピアノシモのフレーズを歌う彼女のいつもながらの至芸まで、表現の幅の広さにとりわけ魅了された」。ノルマの場合と同様、グルベローヴァは、ウィーンでは今のところ最後の初役となる役の披露が演奏会形式で行われた。ウィーン国立歌劇場のデビューから40年後の2010年、彼女はドニゼッティの《ル

クレツィア・ボルジア》の悲劇のヒロインで聴衆を熱狂させた。ゲルト・コレンチュニヒはクリエール紙で次のようなことに気付いたと述べている。「グルベローヴァのソプラノは、明快で、高い音域でも正確で、たいへんにしなやかで、素晴らしい表現力と同時に、極めて繊細な抒情性も非常に柔らかい弱音も持っている。彼女は聴衆を幾度となくまた新鮮に驚嘆させている。そのことが、自らの分野に常に忠実に留まっているグルベローヴァの芸術家としての素晴らしい知性を物語っている。また同時に彼女が驚異的技術を保持していることを示しているわけだが、このめまぐるしく変化していく時代にもかかわらず、それは医学的奇跡といってもよいほどだ」。

ミヒャエル・ブレース
日本語訳 吉田光司

曲目解説

CD 1

①② ドニゼッティ《ドン・バスクワレー》 （ドイツ語歌唱）—〈騎士はあのままざしを〉〈用意はいいわ〉

ガエターノ・ドニゼッティ(1797-1848)の《ドン・バスクワレー》は、1843年1月3日にパリのイタリア劇場で初演された作品。ドニゼッティ最後のオペラ・ブッフである。パリ向けの作品なので規模が大きくオーケストレーションも充実している。物語は、甥エルネストへの相続問題から若い娘と結婚したいと思ったドン・バスクワレーは、医師マラテスタから、大人しい娘に仕立てられた未亡人ノリーナをあてがってもらったが、後で散々な目に遭う、というもの。〈騎士はあのままざしを〉はノリーナの登場の Aria。現実的で抜け目のない彼女の性格がよく示された曲である。〈用意はいいわ〉は、マラテスタに計画を示され、ノリーナが大人しい娘の練習をする愉快な二重唱である。

③④ ドニゼッティ《ランメルモールのルチア》— 〈あたりは静寂に包まれ〉〈裏切られた父の墓で〉

《ルチア》はドニゼッティの代表作である。初演は1835年9月26日、ナポリ、サンカルロ劇場。大成功したのみならず、今日に至るまでレパートリーから落ちることなく歴代のプリマドンナによって歌い継がれてきた。ルチアは一族の政敵であるエドガルドと恋に落ちたが、彼が不在の間に兄エンリーコによって政略結婚させられる。結婚式に乗り込んだエドガルドだったが、ルチアの翻意に激怒し彼女を呪う。ルチアは狂乱し花婿を刺し殺し、自らも間もなく息絶える。それを知ったエドガルドは自害し彼女の後を追う。〈あたりは静寂に包まれ〉はルチアの登場の Aria。前半は不安定なルチアの様子（彼女は幽霊を幻視している）が憂いに満ちた音楽になっている。後半はエドガルドへの情熱的な愛が技巧的な裝飾歌唱で描かれている。

⑤ モーツァルト《後宮からの逃走》—〈どのような責苦があろうとも〉

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

(1756-1791)にとって、念願のウィーンでの初オペラが《後宮からの逃走》だった。この作品はジングシュピール、つまり歌芝居で、ドイツ語の曲をドイツ語の台詞でつなぐタイプのものだった。貴族ベルモンテは、誘拐された婚約者コンスタンツェを取り戻しにトルコの太守の宮殿にやって来る。仲間のブロンデ、ペドリッコと協力し、太守の手下のオスミンに酒を飲ませて脱出を試みるが失敗、処刑寸前に、太守が一同を許し解放する。〈どのような責苦があろうとも〉は、第2幕でコンスタンツェが歌うアリア。拷問をちらつかせながら愛を求める太守に対して、コンスタンツェが毅然として撥ねつける歌。歌詞の内容に応じて非常に緊張感の高い楽想で、歌は装飾が多く高音も頻出する。その一方で、ヴァイオリン、フルートなどの独奏楽器が歌に絡む華やかさは、モーツァルトがパリで学び取った様式である。

⑥ モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》—
〈お父様が危ないの…出て行って、ひどい人〉
モーツァルトのウィーンでの初の宮廷オペラ
《フィガロの結婚》(1786年5月1日初演)は、
ブラハで大ヒットとなり、モーツァルトはブラハ

から新作の依頼を受ける。こうして1787年10月29日にブラハで初演されたのが《ドン・ジョヴァンニ》である。女性を陥落させるのが趣味の放蕩な貴族ドン・ジョヴァンニは、ドンナ・アンナの寝込みを襲った際、反撃に出た彼女の父、騎士長を殺してしまう。なおも女性たちを誘惑してまわるドン・ジョヴァンニだったが、最後には自らが晩餐に招いた騎士長像によって地獄に落とされる。ドン・ファン伝説を基に、主人公を単なる悪役にせず魅力的な人物に描くことで深みを得て、人気の高い作品に仕上がっている。〈出て行って、ひどい人〉は、第1幕のドンナ・アンナとその許婚ドン・オッターヴィオの二重唱。父を助けに来たものの殺された姿を発見したドンナ・アンナは気を失う。ドン・オッターヴィオは彼女を介抱するが、しばらく彼女は取り乱す。落ち着くとドンナ・アンナは許婚に復讐を迫り、誓わせる。劇的で緊迫感に満ちた音楽である。

⑦ モーツァルト《ルーチョ・シツラ》—
〈ああ、残酷な危険が〉
モーツァルトは生涯に3回イタリア楽旅をしており、いずれも十代の時のことだった。

その3回目、16歳の時の訪問の目的が、ミラノの大公立劇場から依頼された《ルーチョ・シツラ》の上演だった。初演は1772年12月26日。直前にタイトルロール役を歌う予定の歌手が降板し経験のない歌手が代役になるなどトラブルが重なり、大成功とは行かなかったが、ほぼ1ヶ月で26回の公演を重ねることができた。ルーチョ・シツラとは共和制ローマの政治家ルキウス・コルネリウス・スツラ(紀元前138-紀元前78)のこと。独裁者シツラは政敵チェチーリオの許婚ジュニアを妻にしようとし、彼を暗殺しようとしたチェチーリオは捕らえられるが、最後のシツラが改心して皆を許す、という物語。〈ああ、残酷な危険が〉は、第2幕のジュニアのアリア。ジュニアは愛する夫の危機に苦悩し、その友人の貴族に夫への助力を願う。極めて技巧的で華やかなアリアで、コロラトゥーラ・ソプラノにとっても至難の曲である。

⑧⑨ ヴェルディ《椿姫》—〈ある喜ばしい日〉
〈ああ、そはかの人か…花から花へ〉
ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)の
《椿姫》は、古今のあらゆるオペラの中でも
最も親しまれているオペラの一つだろう。初

演は1853年3月6日、ヴェネツィア。パリの高級娼婦ヴィオレッタは、プロヴァンスの青年アルフレードの熱烈な愛の告白に心を動かされ、二人は同棲を始める。しかしアルフレードの父ジェルモンが、娘の結婚に差し障るから息子と別れてほしいと要求し、ヴィオレッタはアルフレードと別れ、パリへ戻る。ヴィオレッタが裏切ったと思ったアルフレードはパリへと乗り込み、ヴィオレッタを罵倒する。その後、ヴィオレッタは末期の結核に倒れ、アルフレードが駆けつけるが、再会の喜びもつかの間、彼女は死んでしまう。

〈ある喜ばしい日〉は、第1幕のアルフレードとヴィオレッタの二重唱。切々と愛を訴えるアルフレードに対し、娼婦として軽くあしらおうとしつつ、彼の真の愛に心を動かされるヴィオレッタが絶妙に描かれている。〈ああ、そはかの人か〉はそれに続くヴィオレッタのアリア。真実の愛を知らなかった女が初めて愛に目覚めた喜びと戸惑い、苦しみを見事に描いている。後半、半ばやけになって自嘲するヴィオレッタと、遠くから響くアルフレードの真摯な愛の歌の重層が素晴らしい。

CD 2

① J. シュトラウス2世《こうもり》—侯爵様

ワルツ王と讃えられるヨハン・シュトラウス2世(1825-1899)は、20作弱のオペラ/オペレッタを残しているが、その中で圧倒的に人気が高いのが《こうもり》である。刑務所に収監される前に一晩楽しもうというアイゼンシュタイン、夫が遊ぶなら私もと妻ロザリンデ、そのおかげで暇を貰えた小間使いのアデーレの三人が、それぞれオルロフスキー公爵の舞踏会に変装して参加。正体を知らぬまま妻を口説いたアイゼンシュタインは、後で妻にやり込められる。すべてはこうもりことファルケ博士の仕掛けだった。今日では大晦日の定番演目として高い人気を誇っている。《侯爵様》は、第2幕、変装して舞踏会に現れたアデーレが、アイゼンシュタインから家の小間使いに似ていると言われ、笑いながら否定する愉快なアリア。

②③④ マスネ《マノン》—〈さようなら、わたしたちの小さなテーブルよ〉 〈私が女王のように道を歩くと〉 〈君! あなたでしたか?〉

ジュール・マスネ(1842-1912)は19世紀後半のフランスで最も成功したオペラ作曲

家の一人。アベ・プレヴォーの小説に基づいた《マノン》はその代表作である。騎士デ・グリュウは美しい娘マノンと恋に落ちパリへと駆け落ちする。放蕩の果てに財を失った二人は賭博で益を得るが、イカサマと訴えられる。釈放されたデ・グリュウは、流刑になるマノンを港に追い、二人は抱き合うが、マノンは息絶える。〈さようなら、わたしたちの小さなテーブルよ〉は、マノンが金持ちの誘惑に負けデ・グリュウと別れると決意した時の寂しげな歌。〈私が女王のように道を歩くと〉は、パリの街で男たちを前にマノンが自分の魅力を見せ付けるガヴォット。〈君! あなたでしたか?〉は、修道院に入ったデ・グリュウと彼を訪れたマノンの二重唱。マノンの魅力にデ・グリュウが負け、二人は再び激しい愛に落ちる。いずれの曲もマノンという魔性の女の魅力が見事に音楽になっている。

⑤ ドニゼッティ《マリア・ストゥアルダ》— 〈ばら色の光が私に〉

《マリア・ストゥアルダ》は、ドニゼッティのナポリ時代(1822-1838)で際立った傑作の一つ。マリア・ストゥアルダとはスコットランド女王メアリー(1542-1587)のこと。原作は

フリードリヒ・シラーの戯曲。ドニゼッティの意欲作だったものの、上演は不連続きだった。元々は1834年秋にナポリで上演する予定で書き上げられたものの、初演直前に上演禁止に。翌1835年12月30日にミラノのスカラ座でようやく初演されるものの、これも数回で中止。ドニゼッティの死後の1865年になって改竄版が上演されるも、翌年を最後に上演が途絶える。1958年に蘇演されるが、ドニゼッティの書いた通りの音楽はようやく1989年になって復活できた。上演禁止になったのはメアリーと英国女王エリザベスとの対決をどぎつく描いたことが王政下で災いしたようだが、悲劇の女王に強く思い入れしたドニゼッティの音楽はたいへんに素晴らしい。〈ばら色の光が私に〉は、処刑直前のマリアが、面会に訪れたタルボにスコットランドでの不祥事を懺悔する歌。彼女は夫ヘンリーの死の責任は認めるが、英国女王暗殺未遂事件への関与は否定する。死を覚悟したマリアがタルボに導かれ宗教的平安を得ていく様が感動的な音楽になっている。

⑥ ドニゼッティ《シャモニーのリンダ》— 〈この心の光が〉

ドニゼッティは1838年10月からパリを拠点とした。さらに1842年からウィーンのケルトナートル劇場が第2の拠点となった。この劇場のために初めて書いたのが《シャモニーのリンダ》である。初演は1842年5月19日。農家の一人娘リンダには恋人カルロがいるが、実は彼の正体はシルヴァル子爵。彼女に色目を使うボアフレリー侯爵から離れるため、リンダはパリに出て、正体を明かしたカルロ=子爵と暮らす。だが彼女は子爵が結婚するという噂を聞いて正気を失い、故郷シャモニーに連れ戻される。子爵は縁談を断り、リンダと再会、彼女は正気に戻り、二人は結ばれる。〈この心の光が〉は、第1幕のリンダの登場のアリア。カルロに会えず家に戻ったリンダが、彼への思いを喜びいっぱい歌い上げる。実はこのアリアは初演の半年後、同年11月のパリ上演で追加されたもの。明るく分かりやすいドニゼッティの良さが出た曲である。

㉗ **ドニゼッティ《ロベルト・デヴェルー》—
〈行け! 死がお前を頭上に抱えた〉**

《ロベルト・デヴェルー》はドニゼッティのナポリ時代の末期の作品。ロベルト・デヴェルーとは老年の英国女王エリザベスに寵愛されたエセックス伯ロバート・デヴルーのこと。初演は1837年10月29日、ナポリ。反逆罪で死刑を宣告されたロベルトだが、彼を愛する女王によって決定を先延ばしにされている。だが彼が友人ノッティングム公の妻でかつての恋人サラと密会していたことが明るみに出て、女王は嫉妬に狂う。サラは女王に助命を願おうとするがノッティングムに閉じ込められ、ついにロベルトは処刑される。〈行け! 死がお前を頭上に抱えた〉は、第2幕フィナーレで、密会の相手を明かさぬロベルトにエリザベッタが嫉妬を爆発させてロベルトを捕らえさせる歌。

㉘ **ドニゼッティ《ルクレツィア・ボルジア》—
〈何と美しい!〉**

《ルクレツィア・ボルジア》は、ルネサンス期の高名な同名女性をモデルにした、フランスの文豪ヴィクトル・ユーゴーの悲劇をオペラ化したもの。初演は1833年12月26日、ミラノ。

ヴェネツィア軍の隊長ジェンナーロは幼い頃引き離されたルクレツィアの息子だったが、本人はそれを知らない。彼の様子を伺うルクレツィアを、夫アルフォンソは不貞と思い違いし、ジェンナーロたちを毒殺しようとする。一度目はルクレツィアが解毒剤を飲ませるが、二度目はジェンナーロが仲間を見殺しに一人だけ助かることを拒む。ルクレツィアは自らが母であることを明かすが、ジェンナーロは息絶える。〈何と美しい〉はプロローグで、眠っているジェンナーロの顔を見てルクレツィアが歌う美しいアリア。母でありながら正体を明かせぬ思いが秘めた情熱となって描かれている。

㉙ **ベッリーニ《ノルマ》—〈ご覧なさい、
ノルマよ〉**

ヴィンチェンツォ・ベッリーニ(1801-1835)は、シチリア島のカタニアに生まれ、主としてミラノで活躍した作曲家。優雅な旋律美で絶大な人気を博し、次々とヒット作を飛ばしたが、僅か33歳で亡くなった。《ノルマ》は彼の代表作で、古今のプリマ・ドンナが競って歌っている。紀元前のガリア。ドイルドの巫女の長ノルマは、敵であるローマの総督ポリ

オーネと密かに愛し合い、二人の子を儲けた。だが彼は今や巫女アダルジーザと愛し合っている。それを知ったノルマは、ポリオーネが捕られると、アダルジーザを諦めれば助けると迫るが、彼は応じない。ノルマはガリアの人々を集め、自分こそが皆を裏切ったと告白、その気高さに感動したポリオーネともども火刑の炎へと入る。〈ご覧なさい、ノルマよ〉は、第2幕のノルマとアダルジーザの二重唱。ポリオーネと別れることを宣言したアダルジーザをノルマが受け入れる。ベッリーニの旋律美が堪能できる名曲である。

㊀ **ベッリーニ《清教徒》—〈ああ! 寺院へ
行ってください〉**

《清教徒》はベッリーニの最後のオペラ。初演は1835年1月25日、パリ。17世紀のイングランド。清教徒の貴族の娘エルヴィーラは、王党派の騎士アルトゥーロとの結婚を許されたが、そのアルトゥーロは囚われの前王妃を救うため結婚式直前に逃亡、エルヴィーラは狂乱してしまう。その後エルヴィーラと再会しに戻ったアルトゥーロは捕らえられるが、王政が倒れたとの報せに彼も許される。〈ああ! 寺院へ行ってください〉は、第1幕

の幕切れ直前、アルトゥーロの突然の失踪に正気を失っていくエルヴィーラの場面。

㊁ **R. シュトラウス《ナクソス島のアリアドネ》—〈偉大な王女様〉**

《ナクソス島のアリアドネ》は、リヒャルト・シュトラウス(1864-1949)の17作のオペラの中の6作目。劇中劇として作られた初稿の初演は1912年10月25日、シュトゥットガルト。プロローグを付けて単独で上演できるようにした改訂稿は、1916年10月4日、ウィーンで初演された。ナクソス島に置き去りにされたアリアドネの物語に喜劇役者が闖入するというユニークな作品。最後にバックスがアリアドネを迎えに来て二人は結ばれる。〈偉大な王女様〉は、嘆くアリアドネに新たな恋を勧めるツェルビネッタの大アリア。装飾歌唱が散りばめられ、最高音は高いへ音に至ることで有名である。

Donizetti: Don Pasquale

Deutsch von Joachim Popelka und Horst
Goerges

Arie

NORINA

- ① „Vor jenen heißen Blicken,
die in das Herz ihm drangen,
beugt' er das Knie und gelobte:
,Ich bin dein Kavalier!'
Und aus den himmlischen Augen
strahlte ein solcher Zauber,
dass ihm ein süßes Bangen
selig das Herz umfängen;
er schwur, er wolle im Leben
nie einer Andern sich weihn!“ Haha!

Auch ich versteh die feine Kunst,
die Männer zu besiegen,
ich weiß, wie man sie nehmen muss,
damit sie rasch erliegen.
Ein halb verstohlne Lächeln
weiß klug ich anzubringen,
die heuchlerische Träne dann,
den sehnsuchtsvollen Blick.
Ich kenne tausend Arten,
die groben und die zarten;
mit Männerherzen umzugehn,
darin hab ich Geschick!
Ein halb verstohlne Lächeln
weiß klug ich anzubringen,

ドニゼッティ《ドン・パスクワレ》

ヨアヒム・ポペルカとホルスト・ゲルゲスによるドイツ語訳
歌詞

アリア

ノリーナ

- 「彼の胸の中へと突き刺さった
その熱い眼差しを前にして
彼は跪いて言葉を贈った
『私はあなたの騎士です!』
すると、うっとりとした眼から
魔法が発せられ
甘い慄きが彼の心を
この上ない喜びで抱きしめた。
彼は誓った、
もう他の誰にも身を捧げたりしないと!」 ハハ!

私も素晴らしい技を知っているわ、
男が陥落する技を。
私は知っている、いかに男がすぐ
その技にかかって屈するかを。
私は賢く用いることが出来るわ、
半分だけの微笑み、
偽りの涙、
憧れに満ちた眼差しを。
私は千の術だって知っているわ
荒っぽい術も、繊細な術も。
男の心を扱うのに
私は長けているの。
半分だけの微笑みを
私は賢く用いることができる。

ja glaubt mir: ich kenne
den sehnsuchtsvollen Blick!
Auch ich versteh die feine Kunst,
wie Männer man betört,
ich kenne die Kniffe, ah,
wie man die Männer betört.
Ich bin voller Launen und liebe das Scherzen
und spiele mit Herzen, grad wie mir's gefällt.
Und werde ich zornig, dann will ich mal sehen,
doch rasch kann's vergehen, bin gleich wieder gut.
Den Kopf voller Launen, das Herz voller Güte, ah!
Ich weiß, wie man sie nehmen muss etc.
Ich spiele mit Herzen, grad' wie mir's gefällt, ach ja.

Duett

NORINA

- ② Ich bin bereit und tue alles,
meine Liebe ihm zu beweisen.
Will den Alten schon verwirren,
weiß genau, wie man das macht,
ja, weiß genau, wie man das macht.

DOKTOR MALATESTA

Treue halte ich Ernesto,
weil ich sein Freund bin,
tu ich dies alles, für Ernesto
tu ich dies alles.
Und es wird nicht lange dauern,
geht Pasquale auf den Leim.
Treue halte ich Ernesto etc.

ええ、私は知っているわよ、
憧れに満ちた眼差しを。
私も素晴らしい技を知っているわ
男を陥落させる技を。
私はとても気紛れで
冗談が大好き、
私は自分が気に入るまで心から遊んで、
それから不機嫌になって、
そしてちょっと様子を見る。
でもすぐに変わって、またご機嫌になるの。
頭を素早く切り換え、心を幸せで満たす。ああ!
私は知っている、いかに男がその技にかかるものか…
私は自分が気に入るまで心から遊ぶの。

(訳:吉田光司)

二重唱

ノリーナ

用意はできたわ。何でもやるわよ、
私の愛をあの人に示すためなら。
あの年寄りを混乱させて
どうやるのか、よく知っているわ、
ええ、どうやるのか、よく知っているわ。
マラテスタ
私はエルネストに誠実でいるよ、
私は彼の友人だからね。
これらすべてをやるのさ、エルネストのために、
これらすべてをやるのさ。
そしてそれは長くはかからない
パスクワレが罠に嵌ったら。
私はエルネストに誠実でいるよ。

NORINA

Sagt mir jetzt noch, was ich tun muss.

DOKTOR

Eure Rolle will ich Euch lehren.

NORINA

Spiele ich die Stolz?

DOKTOR

Nein.

NORINA

Stelle ich mich traurig? Traurig?

DOKTOR

Nein, nein, das alles ist nicht richtig.

NORINA

Oder weine ich?

DOKTOR

Nein, nein, nein, nein.

NORINA

Oder schrei ich?

DOKTOR

Nein, das alles ist nicht richtig, gar nicht richtig.

Seid doch stille, still und höret zu!

NORINA

Seufz ich? Sagt doch, soll weinen ich und schrein?

DOKTOR

Spielt ein dummes kleines Gäschen.

NORINA

Ein dummes Gäschen? Ein dummes Gäschen?

DOKTOR

Passt nur auf, was ich Euch sage.

ノリーナ

おっしゃってちょうだい、私に何をしろと?

マラテスタ

あなたの役目は私がお教えしましょう。

ノリーナ

高慢な女を演じるの?

マラテスタ

いや。

ノリーナ

悲しいふりをすればいいの?

マラテスタ

いやいや、どれも違う。

ノリーナ

じゃあ泣くの?

マラテスタ

いやいや。

ノリーナ

叫ぶの?

マラテスタ

いや、どれも違う、ぜんぜん違う。

そうではなく、物静かにして、話をよく聞くんだ。

ノリーナ

溜め息をつくの? ねえ、泣いたり叫んだりしなきゃだめ?

マラテスタ

世間知らずの小娘を演じるんだ。

ノリーナ

世間知らずの娘ですって?

マラテスタ

私の言うことをよく聞いてくれ

NORINA

Diese Rolle liegt mir glänzend.

DOKTOR

Schief den Hals und leise reden.

NORINA

Ach, wir machen eine Probe!

DOKTOR

Ja, wir machen eine Probe.

NORINA

Ach, ich schäm mich...

DOKTOR

Bravo! Bravo!

NORINA

Ach, verschont mich...

DOKTOR

Bravo, bravo, kleine Schelmin,

ausgezeichnet wird das gehn.

Bravo!

NORINA

Danke.

DOKTOR

Bravo!

NORINA

Bitte, ja, mein Herr.

Ach, verschont mich, danke, bitte.

DOKTOR

Ja, das ist gut, ei bravo,

ausgezeichnet wird das gehen.

Prächtig! Du kleine Schelmin!

Nehmt den Kopf noch schief!

ノリーナ

この役は私にピッタリだわ。

マラテスタ

うつむいて小声で話すんだ。

ノリーナ

ちょっと練習してみましょう。

マラテスタ

よし、練習してみよう

ノリーナ

ああ、恥ずかしいわ...

マラテスタ

いいぞ!

ノリーナ

ああ、私を困らせないで...

マラテスタ

いいぞいいぞ、小悪魔だ

これはうまく行くぞ!

いいぞ!

ノリーナ

ありがとうございます。

マラテスタ

いいぞ!

ノリーナ

どうか、ええ、旦那様

ああ、私を困らせないで、ありがとうございます、どうぞ。

マラテスタ

そうだ、これはいい。素晴らしい。

これはうまく行くぞ。

お見事! 君は小悪魔だ!

頭をもっとかしげて!

NORINA

Seht her...

DOKTOR

Bravo. Noch viel leiser reden.

NORINA

Jawohl!

DOKTOR

Ei bravo!

NORINA

Bravo!

NORINA/DOKTOR

Nun lasst uns eilen

Zum großen Werke!

NORINA

Liebe, sie gibt mir ja

Kraft und Stärke!

DOKTOR

Ja, eilen wir zum großen Werke.

Denn die liebe Liebe gibt uns Kraft
und gibt uns Stärke.

Lasst uns kühn den Bogen spannen,
und der Pfeil erreicht sein Ziel.

NORINA/DOKTOR

Don Pasquale zu verwirren,
lasst uns rasch zu Werke gehen.

NORINA

Ja, die Rache naht.

DOKTOR

Spannt den Bogen,
und der Pfeil erreicht sein Ziel.

ノリーナ

こうかしら

マラテスタ

いいぞ。もう少し小声で話して。

ノリーナ

かしこまりました!

マラテスタ

実にいいぞ!

ノリーナ

いいわ!

ノリーナ/マラテスタ

さあ、急ぎましょう

大仕事へと!

ノリーナ

愛よ、あなたは私に

力を与えてくれるわ!

マラテスタ

そうだ、大仕事に急ごう。

いとしい愛は私たちに

力を与えてくれる。

私たちに思っきり弓を引かさせてくれ、

そうすれば矢は的に当たるんだ。

ノリーナ/マラテスタ

ドン・バスクワレはとても混乱するぞ。

仕事に早く取り掛かりましょう。

ノリーナ

ええ、復讐の時は近づいたのよ。

マラテスタ

弓を引けば

矢は的に当たるんだ。

NORINA

Bitte, danke, ja, mein Herr.

DOKTOR

Bravo! Ausgezeichnet wird das gehen.

Donizetti: Lucia di Lammermoor
LUCIA

[3] Regnava nel silenzio

Alta la notte bruna...

Colpia la fonte un pallido

Raggio di tetra luna...

Quando un sommesso gemito

Fra l'aure udir si fè;

Ed ecco su quel margine

L'ombra mostrarsi a me. ah'

Qual di chi parla, muoversi

Il labbro suo vedea,

E con la mano esanime

Chiamarmi a sè, pareo.

Stette un momento immobile,

Poi ratta dileguò,

E l'onda pria sì limpida

Di sangue rosseggiò.

ALISA

Chiari, oh Dio! Ben chiari e tristi

Nel tuo dir presagi intendo!

Ah Lucia, Lucia desisti

Da un amor così tremendo!

ノリーナ

どうぞ、ありがとうございます、ええ、旦那様。

マラテスタ

いいぞ!これはうまく行くぞ!

(訳:吉田光司)

ドニゼッティ《ルチア》
ルチア

暗い夜更け

あたりはずまりかえり……

陰気な月の蒼白い光が

水の面を照らしていました……

低い悲しげな呻きが

風のまにまに聞えて来た時

ここに、この泉の縁のところ

亡霊が、私に姿を見せたのです。ああ!

(両手で顔を覆う)何かを話す人のように

唇の動くのが見え、

そして生気のない手で、

私を招いているように見えました。

一瞬じっと立っていたかと思うと

突然、姿は消えてしまいました。

そしてあんなに澄んでいた水が、

血潮で赤くなりました。

アリーサ

はっきりと、ああ! あなたのお話しの中に

ほんとうにはっきりと、悲しい前兆を感じますわ。

ああ、ルチア様、ルチア様

このような恐ろしい恋は、お諦めなさいませ。

LUCIA

Egli è luce a giorni miei,
È conforto al mio penar.
Quando, rapito in estasi
Del più cocente ardore,
Col favellar del core
Mi giura eterna fè.
Gli affanni miei dimentico.
Gioia diviene il pianto...

ALISA

Ah! Giorni d'amaro pianto
Ah! S'apprestano per te.
Ah! Lucia, ah! desisti!

LUCIA

Ah! Quando, rapito in estasi
Del più cocente ardore,
Col favellar del core
Mi giura eterna fè,
Gli affanni miei dimentico.
Gioia diviene il pianto...
Parmi che a lui d'accanto
Si schiuda il ciel per me!

EDGARDO

4 Sulla tomba che rinserra
Il tradito genitore

ルチア

あの方は、私の日々の光です。
あの方は、私の悩みの慰めです。
あの方は、この上もなく燃える情熱に
心を奪われた時、
心からの言葉として、
私に永遠の誠をお誓いになりました。
私は悲しみを忘れ、
私の涙は、喜びに変わりました…
あの方のおそばにいます
私に天国が開けるような気がします！

アリーサ

ああ！ 苦い涙の日々が
ああ！ あなたを待っています。
ああ！ ルチア様 ああ！お諦めなさいませ。

ルチア

ああ！ あの方はこの上もなく燃える情熱に
心を奪われた時、
心からの言葉として、
私に永遠の誠をお誓いになりました。
私は、悲しみを忘れ、
私の涙は、喜びに変わりました……
あの方のおそばにいます
私に天国が開けるような気がします！

(訳:鈴木松子)

エドガルド

私の裏切られた父が眠っている
墓の上で、私は

Al tuo sangue eterna guerra
Io giurai nel mio furore:

LUCIA

Ah!

EDGARDO

Ma ti vidi, e in cor mi nacque
Altro affetto, e l'ira tacque;
Pur quel voto non è infranto
Io potrei, sì, sì, potrei compirlo ancor!

LUCIA

Deh! Ti placa...Deh! ti frena...

EDGARDO

Ah! Lucia!

LUCIA

Può tradirmè un solo accento!
Non ti basta la mia pena?
Vuoi ch'io mora di spavento?

EDGARDO

Ah, no!

LUCIA

Ceda, ceda ogn'altro affetto.
Solo amor t'infihammi il petto...
Un più nobile, più santo,
D'ogni voto è un puro amor!

EDGARDO

Pur quel voto non è infranto...
Io potrei compirlo ancor...

LUCIA

Ah solo amor t'infihammi il petto,

怒りをこめて、あなたの血族に対する
永遠の戦いを、誓ったのだ。

ルチア

ああ！

エドガルド

だが、あなたに会って、私の心に
別な感情が生まれ、怒りがおさまった。
だがあの誓いが破られたわけではない。
私は、誓いを果たすことができる。そうだ、
まだあの誓いを果たすことができるのだ。

ルチア

ああ、お気を鎮めて。ああ、我慢なさって……

エドガルド

ああ！ルチア！

ルチア

だめになってしまうかも知れませんが ただひとつことで！
私の苦しみが足りないでもおっしゃいますの？
私が驚きの余り死ぬのをお望みになりますの。

エドガルド

いや、ちがう！

ルチア

ほかの感情はすべて捨てて
ただ愛だけを、あなたの胸に燃やして下さい
純粋な愛は、どのような誓いよりも
高貴で、神聖ですわ。

エドガルド

だが、誓いは破られたわけではない
私はまだそれを果たすことができるのだ

ルチア

ああ、ただ愛だけを、胸に燃やして下さい

Cedi, cedi a me, cedi, cedi, all'amor.

EDGARDO *con subita risoluzione*

Qui di sposa eterna fede.

Qui mi giura al Cielo innante.

Dio ci ascolta, Dio ci vede...

Tempio ed ara è un core amante:

ponendo un anello in dito a Lucia

Al tuo fato unisco il mio,

Son tuo sposo.

LUCIA

porcendo a sua volta un anello ad Edgardo

E tua son io.

EDGARDO e LUCIA

Ah! Soltanto il nostro foco

Spegnerà di morte il gel!

LUCIA

Ai miei voti amore invoco

Ai miei voti invoco il Ciel.

EDGARDO

Ai miei voti invoco il Ciel.

Separarci omai conviene.

LUCIA

Oh, parola a me funesta!

Il mio cor con te ne viene.

EDGARDO

Il mio cor con te qui resta.

LUCIA

Ah! Edgardo! Ah! Edgardo!

どうか私に免じて、どうか愛に免じて!

エドガルド(突然、心をきめて)

ここで妻としての永遠の誠を

ここで天に対して誓うのだ。

神様が聞いていらっしゃる

神様が見ていらっしゃる……

愛する心は聖堂であり、祭壇である。

(ルチアの指に、指環をはめて)

私はあなたの運命に、私の運命を結びつける

私はあなたの夫だ!

ルチア

(代りに彼女の指環をエドガルドに与えて)

そして、私はあなたの妻ですわ。

エドガルドとルチア

ああ、死の冷たさだけが

私たちの愛の火を消すでしょう。

ルチア

私たちの誓いのために愛を呼び寄せ

私たちの誓いのために天を呼び寄せます。

エドガルド

私たちの誓いのために天を呼び寄せるのだ。

もう、別れた方がいい。

ルチア

ああ、私にとって悲しいお言葉!

私の心は、あなたとご一緒にまいります。

エドガルド

私の心は、あなたと共にここに残る。

ルチア

ああ! エドガルド! ああ! エドガルド!

EDGARDO

Separarci omai conviene.

LUCIA

Ah! Talor del tuo pensiero

Venga un foglio messaggero

E la vita fuggitiva

Di speranze nutrirò.

EDGARDO

Io di te memoria viva

Sempre, oh cara, serberò.

LUCIA

Ah! Verranno a te sull'aure

I miei sospiri ardenti,

Udrai nel mar che mormora

L'eco dei miei lamenti...

Pensando ch'io di gemiti

Mi pasco e di dolor,

Spargi un'amara lagrima

Su questo pegno allor!

EDGARDO

Verranno a te sull'aure

I miei sospiri ardenti,

Udrai nel mar che mormora

L'eco dei miei lamenti...

Pensando ch'io di gemiti

Mi pasco e di dolor.

Spargi un'amara lagrima

Su questo pegno allor!

LUCIA ed EDGARDO

Ah! Verranno a te sull'aure

エドガルド

もう、私たちは別れた方がいい。

ルチア

ああ! 時々はあなたのお気持ちを記した

お便りを下さいませ

そうすれば、はかない人生にも

希望がはぐまれるでしょう。

エドガルド

いとしい人よ、私はいつも

あなたのことをはっきりと覚えていよう。

ルチア

ああ! 私の燃えるため息が

そよ風によって、あなたに届くでしょう。

眩く海に、あなたは、私の嘆きが

こだまするのをお聞きになるでしょう……

私が嘆き悲しんでいることを

思いやって、

苦い涙を

この誓いの印の上に、注いで下さい。

エドガルド

ああ! 私の燃えるため息が、

そよ風によって、あなたに届くだろう。

眩く海に、あなたは、私の嘆きが

こだまするのを聞くだろう……

私が嘆き悲しんでいることを

思いやって、

苦い涙を

この誓いの印の上に、注いでおくれ。

ルチアとエドガルド

ああ! 私の燃えるため息は、

I miei sospiri ardenti,
Udrai nel mar che mormora
L'eco de' miei lamenti...

LUCIA

Pensando ch'io di gemiti
Mi pasco e di dolor...

LUCIA ed EDGARDO

Spargi un'amara lagrima
Su questo pegno allor!

EDGARDO

Rammentati! Ne stringe il Ciel!

EDGARDO e LUCIA

Addio!

そよ風にのって、あなたに届くでしょう。
眩く海に、あなたは、私の嘆きが、
こだまするのを聞くでしょう……

ルチア

私が嘆き悲しんでいることを
思いやって…

ルチアとエドガルド

苦い涙を
この誓いの印の上に注いで下さい。

エドガルド

覚えていておくれ 天が私たちを結びつけたことを。

エドガルドとルチア

さようなら!

(訳:鈴木松子)

Mozart: Die Entführung aus dem Serail
KONSTANZE

モーツァルト《後宮からの逃走》
コンスタンツェ

[5] Martern aller Arten

mögen meiner warten,
ich verlache Qual und Pein.
Nichts soll mich erschüttern.
Nur dann würd' ich zittern,
wenn ich untreu könnte sein.
Laß dich bewegen, verschone mich!
Des Himmels Segen belohne dich!
Doch du bist entschlossen.
Willig, unverdrossen
wähl' ich jede Pein und Not.
Ordne nur, gebiete,

ありとあらゆる苛責が
たとえ私を待ちかまえていようと、
私は痛みや苦しみをあざ笑ってやろう。
私をおののかすものはなにひとつない。
ただ、自分が不誠実であり得たとしたら、
その時だけ私は身を震わせることだろう。
どうぞ憐れと思って、私を放免して下さい!
天の祝福があなたに報いることでしよう!—
でもどんな歎願にもあなたは動かされない。
では見るがいい、毅然として
どんな辛苦や痛みにも私が耐えるのを。
さあ、兵隊をならばせ、命令し、

lärme, tobe, wüte!
Zuletzt befreit mich doch der Tod.

おどかし、罰を与え、怒り狂うがいいわ!
でも最後に死が私を解放してくれます。

(訳:西野茂雄)

Mozart: Don Giovanni

(ドン・オッターヴィオとドンナ・アンナ登場、灯りを持った召使いを連れている)

ANNA

[6] Ah, del padre in periglio in soccorso voliam!

OTTAVIO

Tutto il mio sangue verserò, se bisogna...

Ma dov'è il scellerato?

ANNA

In questo loco...

モーツァルト《ドン・ジョヴァンニ》

アンナ

お父様が危ないの 早くお助けしなくては

オッターヴィオ

お役に立つなら、私の血を流す覚悟です…

でも、お父様はどこに?

アンナ

このあたり…

〈死体を見つける〉

ANNA

Ma qual mai s'offre, o dei,
spettacolo funesto agli occhi miei!

Il padre... padre mio... oh! caro padre!

OTTAVIO

Signore!

ANNA

Ah! L'assassino
mel trucidò! ... Quel sangue...

quella piaga... quel volto...

tinto e coperto dei color di morte! ...

Ei non respira più! fredde ha le membra!

Padre mio... caro padre... padre amato!

Io manco... io moro!

アンナ

ああ神様、どうして
私の目にこんな悲しい光景を!

お父様、お父様、ああお父様!

オッターヴィオ

お父上…

アンナ

あの男が殺したのだわ

この血…

この傷…このお顔…

まるで死んだ人のような色だわ…

もう息をしていない…手足も冷えて!

お父様…お父様…ああ、お父様

気が遠くなる…死にそう

〈気を失う〉

OTTAVIO オッターヴィオ
Ah! soccorrete, amici, il mio tesoro! ああ! さあこの人を助けるんだ
Cercatemi, recatemi 匂い薬か気つけ薬を
qualche odor, qualche spirto... ah, non tardate! 探して持って来い。さあ、ぐずぐずするな

〈二人の召使い出ていく〉

Donn' Anna! Sposa! Amica! ... il duolo estremo ドンナ・アンナ、私のいとしい人 悲しみのあまりに
la meschinella uccide! かわいそうなこの人も死んでしまうのか

ANNA アンナ
Ah! ああ!

〈召使い戻ってくる〉

OTTAVIO オッターヴィオ
Già rinviene. 意識が戻っているが
Datele nuovi aiuti! その薬も与えてくれ

ANNA アンナ
Padre mio! お父様

OTTAVIO オッターヴィオ
Celate, allontanate agli occhi suoi その怖いものを、隠せ
quell'oggetto d'orrore! この人の目から遠ざけろ

〈死体を選び去る〉

Anima mia, consolati... fa' core! さあしっかりして…元気を出して!

DUETTO 二重唱

ANNA アンナ
Fuggi, crudele, fuggi! 出ていって、ひどい人、出ていって!
lascia che mora anch'io 私と一緒に殺して
ora ch'è morto, o Dio! ああ、私と血のつながった
chi a me la vita diè. お父様が死んでしまったからには

OTTAVIO

Senti, cor mio, deh! senti,
guardami un solo istante,
ti parla il caro amante,
che vive sol per te.

ANNA

Tu sei! ... perdon, mio bene,
l'affanno mio, le pene...

Ah, il padre mio dov'è?

OTTAVIO

Il padre... Lascia, o cara,
la rimembranza amara!

Hai sposo e padre in me.

ANNA

Ah, il padre, il padre mio, dov'è?

OTTAVIO

Lascia, o cara, ecc.

ANNA

Ah! vendicar, se il puoi,
giura quel sangue ognor!

OTTAVIO

Lo giuro agli occhi tuoi,
lo giuro al nostro amor!

ANNA and OTTAVIO

Che giuramento, o dei!

Che barbaro momento!

Fra cento affetti e cento,
vammi ondeggiando il cor!

Fra centi affetti, ecc.

オッターヴィオ

どうした。しっかりして下さい
私ですよ、見て下さい
ここにいるのはあなたの恋人ですよ
あなたを命と思っている男ですよ
アンナ

あなただったの? ごめんなさい
私あなたの顔が見られない…

ああ、お父様はどうしたの

オッターヴィオ

…お父様ですか…さあもう

その苦しい思い出は忘れましょう

今からは私が夫とも父ともなりましょう

アンナ

ああ、お父様はどうしたの…

オッターヴィオ

そのことはもう忘れて…

アンナ

ああ、もしできるなら

この血の復讐をすると誓って

オッターヴィオ

誓うとも、あなたの眼にかけて

誓うとも、私たちの愛にかけて

アンナ、オッターヴィオ

ああ、なんという誓い

なんという無残な瞬間!

さまざまに複雑な思いの間を

心は波立ち揺れ動く。

さまざまに複雑な思いの間を……

ANNA

Vendicar quel sangue, giura!

OTTAVIO

Lo giuro agli occhi tuoi, al nostro amor!

ANNA and OTTAVIO

Che giuramento, ecc.

アンナ

この血に復讐すると誓って!

オッターヴィオ

誓うとも、あなたの眼と私たちの愛にかけて!

アンナ、オッターヴィオ

なんと誓い……

(訳:石井 宏)

Mozart: Lucio Silla

GIUNIA

7 Ah se il crudel periglio

Del caro ben rammento

Tutto mi fa spavento

Tutto gelar mi fa.

Se per sì cara vita

Non veglia l'amistà

Da chi sperare aita

Da chi sperar pietà?

モーツァルト《ルーチョ・シッラ》

ジュニア

ああ、いとしいひとの

むごい危険を思い起こすと、

すべてに私は恐れ、

すべては私を凍らせるの。

これほどにいとしい命のために

友情が心遣いをしてくれぬなら、

誰に助けがのぞめましょう。

誰に憐れみをのぞめましょう。

(訳:海老澤 敏)

Verdi: La traviata

ALFREDO

8 Un di felice, eterea

mi balenaste innante

e da quel di tremante

vissi d'ignoto amor,

di quell'amor ch'è palpito

ヴェルディ《椿姫》

アルフレード

幸福なある日でした。

あなたの清純さは私の魂をゆきぶり、

その日から震えおののきながら、

知らなかった恋を知ったのです。

神秘で気高い、

dell'universo intero,

misterioso, altero,

croce e delizia al cor.

VIOLETTA

Ah, se ciò è ver, fuggitemi.

Solo amistade v'offro.

Amar non so, nè soffro

un così eroico amore.

Io sono franca, ingenua,

altra cercar dovete.

Non arduo troverete

dimenticarmi allora.

ALFREDO

O amore misterioso,...

VIOLETTA

Non arduo troverete...

ALFREDO

...misterioso,...

...altero, ecc.

VIOLETTA

...dimenticarmi allora, ecc.

VIOLETTA

9 Ah, fors'è lui che l'anima

solinga ne' tumulti

godea sovente pingere

de' suoi colori occulti!

Lui che modesto e vigile,

all'egre soglie ascese,

宇宙の全世界の

鼓動である恋を知ったのです。

苦しみと喜びとを心に。

ヴィオレッタ

それがほんとうなら、私から逃げて下さい。

私はただ、友情だけをささげます。

愛するすべは知りませんし、

このような気高い熱情には耐えられません。

私は放縦な自由な女です、

別の方をおさがしにならなければいけません。

そうすれば私をお忘れになることなど

なんでもありませんわ。

アルフレード

ああ、神秘的恋…

ヴィオレッタ

そうすればなんでもありません…

アルフレード

……神秘的……

……気高い、etc.

ヴィオレッタ

……私を忘れることは、etc.

(訳:小野桃代)

ヴィオレッタ

ああ、たぶんあの方よ、

たったひとりさびしい心が

しばしばえがいた

ひそやかな色どりの楽しいときめき。

慎しみ深く、そっと

病身の私の心にふれて、

e nuova febbre accese,
destandomi all'amor,
a quell'amor ch'è palpito
dell'universo intero,
misterioso, altero,
croce e delizia al cor,
ah! sì croce e delizia al cor!

〈ヴィオレッタはうっとりしたまま立っている〉

Follie! Follie! delirio vano è questo!

Povera donna, sola,
abbandonata in questo
popoloso deserto
che appellano Parigi...
che spero or più?
Che far degg'io? Gioire
di voluttà ne' vortici,
di voluttà perir!
Gioir! gioir! Ah!

Sempre libera degg'io
folleggiare di gioia in gioia,
vo' che scorra il viver mio
pei sentieri del piacer.
Nasca il giorno o il giorno muoia
sempre lieta ne' ritrovi, ah!

a diletta sempre nuovi
dee volare il mio pensier, ecc.

愛を呼びさしながら
新しい熱をださせたのはあの方だ。
その愛は宇宙の、
そして全世界の鼓動のような
神秘的な気高い、
心には苦しみと喜びとがある！
ああ！ 苦しみ、喜びを心に！

ばからしい！ ばからしい！
これこそ無意味なうわごとだわ！

かわいそうな女よ、ひとりぼっち、
バリと呼ばれる
人で埋まったさばくに
見捨てられて……、
今になって何を望むのよ？
私はどうすればいいの？ 楽しむのよ、
快樂にふける、
逸樂の繰り返しで死んで行く！
遊ぶのよ！ 遊ぶのよ！ ああ！

私はいつだって自由、
楽しみから楽しみを追って、
私の逸樂の生活は
気まぐれな小道をさまようのよ。
日は生まれ、日は消えようと、
いつも楽しさをもとめて気まぐれでなくては
いけないのよ。ああ！
私は新しい楽しみだけを
考えればいいのよ、etc.

ALFREDO'S VOICE

Amor, amor è palpito...

VIOLETTA

Oh!

ALFREDO

...dell'universo intero,...

VIOLETTA

Oh amore!

ALFREDO

...misterioso, altero,
croce e delizia al cor!

VIOLETTA

Follie! follie! Ah!

Ah! sì! Gioir! gioir! Ah!

Sempre libera degg'io, ecc....

ALFREDO

Amor è palpito...

VIOLETTA

...Ah! ah! ah!...

ALFREDO

...dell'universo.

VIOLETTA

...Ah! ah! ah!

dee volar il pensier, ecc.

アルフレードの声

〈舞台裏から〉

愛、愛は鼓動…

ヴィオレッタ

ああ！

アルフレード

……全世界の……

ヴィオレッタ

ああ、愛よ！

アルフレード

……神秘で気高く、

苦しみと喜びとを心に！

ヴィオレッタ

ばからしい！ ばからしい！ ああ！

遊ぶのよ！ 遊ぶのよ！ ああ！ そうですとも！

私はいつだって自由、etc.

アルフレード

愛は鼓動……

ヴィオレッタ

……ああ！ ああ！ ああ！……

アルフレード

……宇宙の。

ヴィオレッタ

……ああ！ ああ！ ああ！……

気まぐれでなくてはいけない、etc.

〈繰り返す〉

(訳:小野桃代)

J. Strauss II: Die Fledermaus

ADELE

- ① Mein Herr Marquis,
Ein Mann wie Sie
Sollt' besser das verstehen,
Darum rate ich
Nur genauer sich
Die Leute anzusehen!
Die Hand ist doch wohl gar so fein, ach!
Dies Füßchen, so zierlich, so klein, ach!
Die Sprache, die ich führe,
Die Taille, die Tournüre,
Dergleichen finden Sie
Bei einer Zofe nie!
Gestehen müssen Sie fürwahr,
Sehr komisch dieser Irrtum war!
Ja, sehr komisch,
Ha ha ha,
Ist die Sache,
Ha ha ha,
D'rum verzeih'n Sie,
Ha ha ha,
Wenn ich lache,
Ha ha ha...
ADELE, GUESTS
Ja, sehr komisch,
Ha ha ha,
Ist die Sache,
Ha ha ha...

J. シュトラウス2世《こうもり》

アデーレ
失礼な
冗談ね
も一度よく見て
しんけんな
顔をして
おかしな人!
指の細さもね
足の長さもね
声も似てるの
腰の細さも
歩きかたでも、目の色も
似てるのね、だれかの女中!
ばかにしてるのね
笑いごとだよ!
しんそこ
はっはっは
おかしい
はっはっは
ほんとに
はっはっは
たのしい
はっはっは
アデーレ、お客たち
しんそこ
はっはっは
おかしい
はっはっは

ADELE

Sehr komisch, Herr Marquis,
Sind Sie!
Mit dem Profil
Im griech'schen Stil
Beschenke mich Natur,
Wenn nicht dies Gesicht
Schon genügend spricht,
Dann seh'n Sie die Figur!
Schau'n durch das Lorgnette Sie dann,
ach! Sich diese Toilette nur an, ach!
Mir scheint wohl, die Liebe
Macht Ihre Augen trübe,
Der schönen Zofe Bild
Hat ganz Ihr Herz erfüllt!
Nun sehen Sie sie überall,
Sehr komisch ist fürwahr def Fall!
Ja, sehr komisch,
Ha ha ha usw.

アデーレ

しんそこ、おかしい
ばかばかしいこと!
横顔が
似てるのね
ほころがあるのね
耳の下
あごの下
たくさんあるの!
色めがねなのよ
鏡をごらんよ
恋したことが
あるのかしらね
あばたでも、えくぼというわ
すてきな方ですわその人
だいじになさいな
笑わせないでよ!
しんそこ
はっはっは……(以下繰り返し)

(訳:野上 彰)

Massenet: Manon

MANON

- ② Allons! Il le faut pout lui-même...
Mon pauvre Chevalier!
Oui, c'est lui que j'aime!
Et pourtant, j'hésite aujourd'hui.
Non, non!... Je ne suis plus digne de lui!
J'entends cette voix qui m'entraîne

マスネ《マノン》

マノン

さあ! 彼のためにそうしなくてはならないの……
お気の毒なシュヴァリエ!
ええ 私はほんとに彼を愛しているのですもの
だけど 私 今日は決心がつかないわ
いえ いえ! ……私はもうあの方にふさわしくないわ!
私には 私の意志に反して 私を誘惑する声が

Contre ma volonté:
Manon, Manon, tu seras reine...
Reine... par la beauté!
Je ne suis que faiblesse et que fragilité...
Ah! malgré moi je sens couler mes larmes...
Devant ces rêves effacés,
L'avenir aura-t-il les charmes
De ces beaux jours déjà passés?...
(Peu à peu elle s'est approchée de la table toute servie.)

Adieu, notre petite table,
Qui nous réunit si souvent!...
Adieu, adieu, notre petite table,
Si grande pour nous cependant!...
On tient, c'est inimaginable...
Si peu de place... en se serrant...
Adieu, notre petite table!
Un même verre était le nôtre,
Chacun de nous, quand il buvait
Y cherchait les lèvres de l'autre...
Ah! pauvre ami, comme il m'aimait!...
Adieu, notre petite table, adieu!...

MANON

③ Je marche sur tous les chemins,
Aussi bien qu'une souveraine;
On s'incline, on baise ma main,
Car par la beauté je suis reine!
Je suis reine!

聞こえて来るのどもの
マノン マノン あなたは女王になるだろう
女王……その美しさによって!
私は意気地のない そして脆い女に過ぎないんだわ……
ああ! 私の意志に反して 私は涙を流している……
むなしい夢の前に
これから先 今までに遇したような
楽しい日々があるかしら?
(マノン 少しずつ既に夕食の整えられたテーブルに
近附く)
さようなら 私たちの小さなテーブルよ
私たちは度々お前の周囲に集まったわね!
さよなら さよなら 私たちの小さなテーブルよ
しかしお前は私たちにとって 時に大き過ぎたわ!……
私たちが身を寄せて腰かけるには
ほんの少しの場所しか要らなかつたから……
さようなら 私たちの小さなテーブルよ!
私たちはただ一つのグラスを使っていた
お酒を飲む時 私たちはお互いの
くちびるの跡を求めて飲んだから……
ああ! お気の毒な方 あれ程私を愛して下さいのに!……
さようなら 私たちの小さなテーブルよ さようなら!……
(訳:鈴木松子)

マノン

私が女王様と同じように
路を行けば
人々は身をかかめ 私の手にくちづけます
何故なら私は美しさによって女王だから!
私は女王なんです!

Mes chevaux courent à grands pas;
Devant ma vie aventureuse,
Les grands s'avancent chapeau bas;
Je suis belle, je suis heureuse!
Je suis belle!
Autour de moi tout doit fleurir!
Je vais à tout ce qui m'attire!
Et si Manon devait jamais mourir,
Ce serait, mes amis, dans un éclat de rire!
Ah! ah! ah! ah!
BRETIGNY ET LES SEIGNEURS
Bravo! Bravo! Manon! Bravo!
MANON
Ah! Ah! Ah! ecc.
MANON
Obéissons quand leur voix appelle,
Aux tendres amours,
Toujours, toujours, toujours,
Tant que vous êtes belle,
Usez sans les compter vos jours, tous vos jours!
Profitons bien de la jeunesse,
Des jours qu'amène le printemps;
Aimons, rions, chantons sans cesse,
Nous n'avons encor que vingt ans!
BRETIGNY ET JEUNES GENS
Profitons bien de la jeunesse!
MANON
Profitons bien de la jeunesse,
Aimons, rions, chantons sans cesse,
Nous n'avons encor que vingt ans! Ah, Ah!

私の馬は堂々と気負って歩き;
波瀾に富んだ私の生活の前に
高貴な方も脱帽します
私は美しい 私は幸福です
私は美しい
私は花でとりまかれなければならない!
私は私を呼ぶあらゆる快楽を受けます!
だからもしマノンが死ぬような時には
私の友達は 声をあげて笑うでしょう
ハ! ハ! ハ! ハ!
プレティニーと貴族たち
ブラヴォ! ブラヴォ! マノン! ブラヴォ!
マノン
ハ! ハ! ハ! ハ! etc.
マノン
彼等の声が 甘い恋に誘う時
私たちは従いますわ
いつでも いつでも いつでも
あなたの美しさがあせない間は
心ゆくまで享樂するのがいいのよ 心ゆくまで
青春の時には 若さを楽しむのがいいのよ
絶え間なく恋を語り 笑いさざめき
歌を唄いましょう
20歳という時は もう二度と来ないのですもの
プレティニーと青年たち
若さを心ゆくまで楽しもう
マノン
若さを心ゆくまで楽しみましょう
絶え間なく恋を語り 笑いさざめき 歌を唄いましょう
もう二度と20歳という年は来ないのですもの ハ! ハ!

JEUNES GENS

Profitons bien de la jeunesse!
Rions! Ah! Ah!

MANON

Le cœur, hélas! le plus fidèle.
Oublie en un jour l'amour, l'amour,
Et la jeunesse ouvrant son aile a disparu sans
retour, sans retour.

Profitons bien de la jeunesse,
Bien courte, est la saison du printemps!
Aimons, chantons, rions sans cesse,
Nous n'aurons pas toujours vingt ans!

JEUNES GENS

Profitons bien de la jeunesse!

MANON

Profitons bien de la jeunesse!
Aimons, chantons, rions sans cesse,
Profitons bien de nos vingt ans! Ah! Ah!

JEUNES GENS

Profitons bien de la jeunesse!
Aimons, chantons, rions sans cesse,
Profitons bien de nos vingt ans! Ah! Ah!

DES GRIEUX

4 Toi! Vous!

MANON

Oui, c'est moi, moi! c'est moi! Oui, c'est moi!

DES GRIEUX

Que viens-tu faire ici?

青年たち

若さを心ゆくまで楽しもう
笑いさざめいて! ハ! ハ!

マノン

ああ! この上もなく誠実だった心も
かつての日の恋を 恋を忘れてしまう
そして翼を上げた若さは飛び去ってしまう
再び帰ることなく 再び帰ることなく

若さを心ゆくまで楽しみましょう
青春は非常に短いだから!
恋を語り 歌を唄い 絶え間なく笑いさざめきましょう
20歳という年は二度とないのだから!

青年たち

若さを充分に楽しもう!

マノン

若さを思う存分楽しみましょう
絶えず恋を語り 歌を唄い
笑いさざめきましょう ハ! ハ!

青年たち

若さを心ゆくまで楽しもう
絶えず恋を語り 歌を唄い 笑いさざめき
我々の20歳という年を 充分楽しもう! ハ! ハ!

(訳:鈴木松子)

デ・グリユー

君! あなたでしたか?

マノン

はい 私! 私です! はい 私でございます!

デ・グリユー

どうしてこのような所に おいでになったのです

Va-t-en! Va-t-en! Eloigne-toi!

MANON

Oui! Je fus cruelle et coupable!
Mais rappelez-vous tant d'amour!
Ah! dans ce regard qui m'accable,
Lirai-je mon pardon, un jour?

DES GRIEUX

Eloigne-toi!

MANON

Oui! Je fus cruelle et coupable!
Ah! Rappelez-vous tant d'amour!
Rappelez-vous tant d'amour!

DES GRIEUX

Non! j'avais écrit sur le sable
Ce rêve insensé d'un amour
Que le ciel n'avait fait durable
Que pour un instant, pour un jour!

MANON

Oui! je fus coupable!

DES GRIEUX

J'avais écrit sur le sable...

MANON

Oui! je fus cruelle!

DES GRIEUX

C'était un rêve
Que le ciel n'avait fait durable
Que pour un instant, pour un jour!
Ah! perfide Manon!

MANON

Si je me repentai,

お帰りなさい! お帰りなさい! 私の傍から立ち去って下さい!
マノン

ほんとに! 私は残酷で罪深い女でございました
しかし あれ程愛に満ちた日々を思い出して下さいませ
ああ! 私をお責めになるまなざしの中に
いつの日か お許しを読みとることが出来ましようか?
デ・グリユー
立ち去って下さい!

マノン

はい! 私は残酷で罪深い女でございました!
ああ! あれ程愛に満ちた日々を思い出して下さいませ!
あれ程深かった愛を思い出して下さいませ!

デ・グリユー

いや! 私は砂の上に
愛の愚かな夢を描いていたのだ
運命は僅か一日だけ ほんのひとときだけ
目をかけてくれたにすぎないのだ!

マノン

はい! 私は罪深い女でございました
デ・グリユー
私は砂の上に描いた……

マノン

はい! 私は残酷でございました!
デ・グリユー
それは夢にすぎなかった
僅か一日だけ ほんのひとときだけ運命が
目をかけてくれたにすぎなかった

マノン

もし私が悔い改めても

DES GRIEUX

Ah! perfide! perfide!

MANON

Est-ce que tu n'aurais pas de pitié?

DES GRIEUX

Je ne veux pas vous croire.

Non! vous êtes sortie enfin de ma mémoire

Ainsi que de mon cœur!

MANON

Hélas! Hélas! l'oiseau qui fuit

Ce qu'il croit l'esclavage,

Le plus souvent la nuit

D'un vol désespéré revient battre au vitrage!

Pardonnez-moi!

DES GRIEUX

Non!

MANON

Je meurs à tes genoux.

Ah! rends-moi ton amour si tu veux que je vive!

DES GRIEUX

Non! il est mort pour vous!

MANON

L'est-il donc à ce point que rien ne le ravive!

Ecoute-moi! Rappelle-toi!

N'est-ce plus ma main que cette main presse?

N'est-ce plus ma voix?

N'est-elle pour toi plus une caresse.

Tout comme autrefois?

デ・グリユー

ああ! 罪深い女! 不実な女!

マノン

あなたは私に憐れみをかけては下さらないのでしょうか?

デ・グリユー

私はもうあなたを信じたくない

いや! あなたは私の心からと同じように

記憶からも消え失せたのだ

マノン

ああ! どうしましょう! とらわれたと信じて

飛び出した小鳥は

夜になると必ず

破れた翼で とらわれの古巣に帰って来ます

私を許しては下さりませんか?

デ・グリユー

だめだ!

マノン

あなたのお膝元に死にます

ああ! もしもあなたが私の生きていることをお望みならば

あなたの愛を蘇らせて下さいまし

デ・グリユー

だめだ! それはあなたのために死んだのだ!

マノン

それはほんのちょっと眠っているだけ すぐに蘇ります

聞いて下さいませ! 思い出して下さいませ!

あなたのその手をしっかり抑えていたのは

私のこの手ではなかったのでしょうか?

私の声ではなかったのでしょうか?

過ぎ去ったかつての日のように

あなたを愛撫しているのは 彼女ではないのでしょうか?

Et ces yeux, jadis pour toi pleins de charmes,

Ne brillent-ils plus à travers mes larmes?

Ne suis-je plus moi?

N'ai-je plus mon nom?

Ah! regarde-moi! Regarde-moi!

N'est-ce plus ma main que cette main presse,

Tout comme autrefois?

N'est-ce plus ma voix?

N'est-ce plus Manon?

Rappelle-toi!

N'est-ce plus ma main?

Ecoute-moi:

N'est-ce plus ma voix?

N'ai-je plus mon nom?

N'est-ce plus Manon?

DES GRIEUX

O Dieu! Soutenez-moi dans cet instant suprême!

MANON

Je t'aime!

DES GRIEUX

Ah! Tais-toi!

Ne parle pas d'amour ici, c'est un blasphème!

MANON

Je t'aime!

DES GRIEUX

Ah! Tais-toi!

Ne parle pas d'amour!

MANON

Je t'aime!

かつてあなたのために魅力にあふれたこの眼は

涙を通してもはや輝いてはいないのでしょうか?

私はもう昔の私ではないのでしょうか?

私はもう私の名を失ったのでしょうか?

ああ! 私を見て下さいませ! 私を見て下さいませ!

あなたのその手をしっかり握ったのは

私の手ではなかったのでしょうか?

もうみんな昔のようではないのでしょうか?

私の声ではないのでしょうか?

マノンではないのでしょうか?

思い出して下さいませ!

私のこの手ではなかったのでしょうか?

私のいうことを聞いて下さいませ! :

私の声ではなかったのでしょうか?

私の名前ではなかったのでしょうか?

マノンではなかったのでしょうか?

デ・グリユー

おお 神よ! この試練の時に我を支え給え

マノン

私はあなたを愛しております

デ・グリユー

ああ! 言うな ここで愛を語るな

それは神を冒瀆することだ!

マノン

私はあなたを愛します

デ・グリユー

ああ! 黙れ!

愛を語るな

マノン

あなたを愛します

DES GRIEUX

C'est l'heure de prier...

MANON

Non! Je ne te quitte pas!

DES GRIEUX

On m'appelle là-bas...

MANON

Non! Je ne te quitte pas!

Viens!

N'est-ce plus ma main que cette main presse,

Tout comme autrefois!

DES GRIEUX

Tout comme autrefois!

MANON

Et ces yeux, jadis pour toi pleins de charmes,

N'est-ce plus Manon?

DES GRIEUX

Tout comme autrefois,

Tout comme autrefois!

MANON

Regarde-moi!

Ne suis-je plus moi? n'est-ce plus Manon?

DES GRIEUX

Ah! Manon! Je ne veux plus lutter contre moi-même!

MANON

Enfin!

DES GRIEUX

Et dussé-je sur moi faire crouler les cieus,

デ・グリュウ

お祈りの時間だ!

マノン

いや! 私はあなたから離れません!

デ・グリュウ

私は呼ばれているのだ……

マノン

いや! 私は離れません!

いらっしやい!

あなたの手をしっかり抑えているこの手は

私の手ではないのですか 過ぎ去ったあの日のように?

デ・グリュウ

過ぎ去ったあの日のように!

マノン

かつての日あなたのために魅力に溢れたこの眼は

もうマノンではないのでしょうか?

デ・グリュウ

過ぎ去ったかつての日のように

過ぎ去ったかつての日のように!

マノン

私を見て下さいませ

もうかつての私ではないのでしょうか?

マノンではないのでしょうか?

デ・グリュウ

ああ! マノン! 私はもう私自身と闘いたくない!

マノン

どうとう!

デ・グリュウ

そして神を裏切った私には 天罰が下るにちがいない

Ma vie est dans ton cœur, ma vie est dans tes yeux!

Ah! Viens! Manon! Je t'aime!

MANON

Je t'aime!

DES GRIEUX

Je t'aime!

Donizetti: Maria Stuarda
MARIA

- [5] Quando di luce rosea
il giorno a me splendea,
quando fra lieti immagini
quest'anima godea,
amor mi fè colpevole,
m'apri l'abisso amor.
Al dolce suo sorridere
odiava il mio consorte;
Arrigo! Arrigo! ah! misero,
per me soggiacque a morte,
ma la sua voce lugubre
mi piomba in mezzo al cor,
in mezzo al cor, ah!
Ombra adorata, ah! placati,
nel sen la morte io sento.
Ti bastin le mie lagrime,
ti basti il mio tormento.

私の生命はあなたの心の中にある、私の生涯はあなたの眼の中にある!

ああ! おいで! マノン! 君を愛してる!

マノン

私はあなたを愛します

デ・グリュウ

僕は君を愛してる!

(訳:鈴木松子)

ドニゼッティ《マリア・ストウアルダ》
MARIA

ばら色の光が私に
輝いていた日々に
私の心が幸福な夢の中で
喜びに浸っていた時に
恋の為に私は罪を犯し
恋が私に奈落のふたをあけたのだ
愛が甘く微笑んでいる時に
私は夫を憎んでいたのだ
アリーゴ! アリーゴ! ああ! 不幸な人よ
私の為に死ぬ羽目になってしまったのだわ
しかし彼の哀れな声が
私の心に響いて来る
私の心の中にああ、
いとしき亡霊よ、ああ! 心を静めて…
私はもうこの胸に死を感じています
あなたは私の涙で充分報われたでしょう
この私の苦痛で充分報われたでしょう

TALBOT

Ah! da Dio perdono, o misera,
implorerò per te, per te.

MARIA

Perdona a' lunghi gemiti
e prega il ciel per me.

TALBOT

Un'altra colpa a piangere
ancor ti resta.

MARIA

Ahi! quale?

TALBOT

Unita eri a Babington?

MARIA

Ah! taci: fu error fatale!

TALBOT

Pensa ben che un Dio possente
è de' falli punitore,
che al suo sguardo onniveggente
mal s'asconde un falso core.

MARIA

No! giammai sottrarsi al cielo
si potrebbe il mio pensiero;
ah, pur troppo un denso velo
ha fin'or coperto il vero.
Sì, morendo il giura un core,
che da Dio chiede pietà.

Lo giuro a Dio! lo giuro a Dio!

TALBOT

Il perdono del Signore

タルボ

ああ! あなたの為に神に許しを
乞いましょう、おお不幸な人よ

マリア

長い間、嘆いたことをお許しください
そして私の為に神に祈ってください

タルボ

涙すべきもう一つの罪が
まだ残っていますね

マリア

ああ! どんな?

タルボ

バビントン事件に関連しておられましたでしょう?

マリア

ああ! 黙って、それはとんでもない誤解です!

タルボ

想い出さない、全能の神は
すべての罪を罰し、たとえ一つの偽りの心も
彼のすべてを見通す目からは
逃れることができないのです

マリア

ええ! 私の心の内が神の目から
逃れるなんてことは、決してできないのです。
ああ! 残念なことに、今までは真実が
厚いベールにおおわれていたのです
死ぬにあたって神に許しを願うこの心は
私の言ったことが偽りでないと誓います
それを神に誓います! 誓います!

タルボ

神の許しは

sul tuo capo scende già.

MARIA

Si...si.

TALBOT

Lascia contenta al carcere
quest'affannosa vita,
andrai conversa in angelo
al Dio consolator.

E nel più puro giubilo

l'anima tua rapita,

si scorderà de' palpiti

ch'hanno agitato il cor.

MARIA

Or che morente è il raggio
della mia debil vita,
il cielo sol può render
la pace al mesto cor.

Ah! se di troppe lagrime

quest' alma fu nudrita

versino i lunghi palpiti

nell'ultimo dolor.

TALBOT

Dunque innocente?

MARIA

Vado a morir.

TALBOT

Infelice! Innocente tu vai a morir.

MARIA

Sì, innocente, lo giuro, io vado a morir.

すでにあなたの頭上に降りている

マリア

ええ...ええ。

タルボ

満ち足りた心でこの牢獄を立ち去るのです
この苦しみに満ちた生涯から
天使のようになって
神のふところに飛んで行きなさい

清らかな喜びのうちに

あなたの魂は恍惚となり

今迄心をわずらわせていた

すべての苦悩を忘れるでしょう

マリア

今や、私のか弱い生命の
光は消えかかっている
天のみが私の悲しい心に
平和を再び戻してくれることが出来るのです

ああ! たとえこの心があまりにも多くの涙で、

はぐまれてきたとしても

この最後の苦痛でもって

長い間の苦しみが終わりますように

タルボ

では無実のまま?

マリア

死におもむきます

タルボ

不幸な方だ! 無実のまま死におもむかれるとは

マリア

ええ、無実ですとも、誓います、それでも死におもむくのです

TALBOT

Ah! Lascia contenta al carcere, ecc.

MARIA

Ah! Se di troppe lagrime, ecc.

**Donizetti: Linda di Chamounix
LINDA**

- [6] Ah! tardai troppo,
e al nostro favorito convegno
io non trovai il mio diletto Carlo,
e chi sa mai quant'egli avrà sofferto!
Ma non al par di me.

Pegno d'amore
questi fior mi lasciò!
Tenero core!
E per quel core
io l'amo, unico di lui bene.
Poveri entrambi siamo,
viviam d'amor, di speme:
pittore ignoto ancora
egli s'innalzerà co' suoi talenti!
Sarò sua sposa allora.
Oh noi contenti!

Aria

O luce di quest'anima,
delizia, amore e vita,

タルボ

ああ! 満ち足りた心でこの牢獄を、etc.

マリア

ああ! あまりにも多くの涙で etc.

(訳:永竹由幸)

**ドニゼッティ《シャモニーのリンダ》
リンダ**

ああ! 遅すぎってしまった、とっておきのあの場所に
もう愛するカルロの姿は
見られなかった……
あの人はどんなに辛い思いをしたでしょう!…
でも私ほどではないのです。

愛のあかしに
この花をちゃんと後に残していった!
優しい心!
そうよ、その心のせいで、
あの人をひとりだけ深く愛しているのです。
どちらも共に貧しいけれど、
愛と希望に生きている、
まだ知られていない画家だけど
あの方は才能で身を立てていく!
そうして私は花嫁になる。
おお、幸せな私たち!

アリア

おお、この魂の光、
喜び、愛、命、

la nostra sorte unita
in terra, in ciel sarà
Deh vieni a me, riposati
su questo cor che t'ama,
che te sospira e brama,
che per te sol vivrà.

O luce di quest'anima,
amor, delizia e vita,
unita nostra sorte
in terra, in ciel sarà.

Vieni al mio core
che te sospira,
che per te solo si, sol vivrà,
vieni.

**Donizetti: Robert Devereux
NOTTINGHAM**

(理性を失い、怒り狂って)

- [7] Scellerato!.....Malvaggio!.....Malvaggio!
E chiudevi tal perfidia
nel cuore sleale?
E tradir sì vilmente potevi.....

la regina?

ROBERTO

(Supplizio infernale!.....)

私たちの運命はきっと
地上と天国で結ばれる。
ねえ、私のそばに来て、この胸で
お休みなさい、心はあなたを愛し、
あなたが恋しくて待ち焦がれ、
あなたのためにだけ生きていく。

おお、この魂の光、
喜び、愛、命、
私たちの運命はきっと
地上と天国で結ばれる。

私の胸にいらっしやい、
心はあなたが恋しくて、
あなただけ、そう、あなたのためにだけ生きていく。
いらっしやい。

(訳:武田秀一)

**ドニゼッティ《ロベルト・デヴェルレー》
ノッティンガム**

極悪人め!……悪党め!……悪党め!
このような悪意を隠し持っておったのか、
その不実な心に?
それでこのように卑劣に裏切り行為が出来たのか……
(ロベルトに敵対する構えで)
女王陛下に対して?
ロベルト
(地獄の苦しみ!……)

NOTTINGHAM

Ahi! la spada,
la spada un istante,
al codardo,
all'infamia sia resa!.....
Ch'ei mi cada trafitto alle piante,
ch'io nel sangue deterga l'offesa!.....
Una spada!.....Una spada!.....

ELISABETTA

O mio fido!
e tu fremi, tu pure,
dell'oltraggio che a me fu recato!
Io favello: m'ascolta!
La scure già minaccia
il tuo capo esecrato.
Qual si noma l'ardita rivale,
di, soltanto
e, lo giuro, vivrai.

〈ノッティンガム、恐ろしく不安な様子でロベルトを見つめる。沈黙の一瞬〉

Parla, parla.

NOTTINGHAM

(Momento fatale!)

ROBERTO

Pria la morte, la morte, la morte!

ELISABETTA

Ostinato!.....Si, l'avrai.

ROBERTO

Si, regina, mi chiedo la morte.

NOTTINGHAM

(Oh momento, momento fatale!)

ノッティンガム

ああ何たること! 剣を以って
すぐさま、剣を以って
この卑劣漢に、
この恥辱に返報しなければ!.....
きゃつが刺し貫かれて足下に倒れることを、
私が受けた恥辱をきゃつの血で贖えることを!.....
剣を!.....剣を!.....

エリザベッタ

わが真(まこと)篤き者よ!
そなたは身震いしておる、そなたもやはり
私にもたらされた恥辱に!
これから申すことを、よく聞くがよい!
すでに斧が狙っておる、
そなたの憎むべき首を。
が、不敵な恋敵の名を
言うがよい、それだけで
私は誓う、そなたの命は救われよう。

申せ、話せ。

ノッティンガム

(運命の時だ!)

ロベルト

むしろ死を、死を、死を!

エリザベッタ

強情な!.....そうか、死なせてやる。

ロベルト

そうです、女王陛下、死を願います。

ノッティンガム

(この瞬間、運命の瞬間!)

〈女王の合図で、再び広間を廷臣、宮廷婦人、小姓、衛兵らがうめる〉

ELISABETTA

Tutti udite.
Il consiglio de' Pari
di costui la condanna mi porse.
Io la segno.

〈死刑の判決文書に署名し、それをセシルに渡す〉

Ciascuno lo impari.

Come il Sole,
che parte già corse del suo giro,
al meriggio sia giunto,
s'oda un tuono del bronzo guerrier:
percuota la scure in quel punto.

CORTIGIANI

(Tristo giorno di morte forier!)

ELISABETTA

Va,
Va la morte sul capo ti pende,
sul tuo nome l'infamia discende.....
Tal sepolcro t'appresta il mio sdegno,
che non fia di pianto lo scaldi:

con la polve di vili ribaldi

la tua polve confusa sarà!

ROBERTO

Del mio sangue la scure bagnata
più non fia d'ignominia macchiata.
Il tuo crudo, implacabile sdegno
non la fama, la vita mi toglie.

NOTTINGHAM

(No, l'indegno non muoja di spada,

エリザベッタ

皆の者、聞いて欲しい。
貴族による諮問会から
被告への判決が私にもたらされた。
私はそれに署名をする。

誰も皆、よく知っておくよう、

太陽が
もうすでに昇り始めているが
正午の位置に達したとき
大砲の号音が響く、
それと同時に斧が落ちる。

廷臣たち

(死のさし迫った悲しい日!)

エリザベッタ

行くがよい、
死がそなたの頭上にあり
不名誉がそなたの名にふりかかる.....
私の怒りがそなたに用意したのは
墓石を暖める涙もないそのような墓所、

そこでそなたの朽ちた遺骸は

無頼の徒の遺骸と混り合うのだ!

ロベルト

斧は、私の血に濡れはしても
汚名に穢れることはないでしょう。
陛下の酷い、和らぐことない怒りは
私の名誉ではなく、命を奪うのです。

ノッティンガム

(いや、恥知らずは剣にかかって死んではならぬ、

sovra il palco infamato egli cada.....
Nè il supplizio serbato all'indegno
basta all'ira che m'arde in sen.)

CECIL & RALEIGH

Sul tuo capo la scure già piomba;
maledetto il tuo nome sarà.

NOTTINGHAM

No, l'indegno non muoja di spada,

CORTIGIANI

Al rejetto nemmeno la tomba
un asilo di pace sarà.

ELISABETTA

Vile! vile!
Va, la morte sul capo ti pende.....
Ho sul ciglio la benda dell'ira.

ROBERTO

Ah! supplizio infernale!

ELISABETTA

Va! la morte sul capo ti pende,
sul tuo nome l'infamia discende.
Tal sepolcro t'appresto il mio sdegno
che non fia di pianto lo scaldi:
la tua polve confusa
sarà.....si! sarà. ecc.

〈エリザベッタがこの言葉を繰り返す間、他の者は前出の言葉を繰り返す〉

〈エリザベッタの合図で、ロベルト、衛兵に囲まれ、連れ去られる〉

(訳:小瀬村幸子)

きやつは処刑台の上で不名誉に倒れるがよい……
いや、極刑が恥知らずに与えられようと
私の胸の中で燃える怒りにはまだ足りぬ。)

セシル、ローリー

貴様の頭上にはすでに斧が落ちる、
貴様の名は呪われようぞ。

ノッティンガム

いや、恥知らずは剣にかかって死んではならぬ。

廷臣たち

咎人には墓場さえ
安息の地とはなるまい。

エリザベッタ

卑怯な! 卑怯な!
行くがよい、死はそなたの頭上にある……
私は怒りのために目がくらんでしまった。

ロベルト

ああ! 地獄の苦しみ!

エリザベッタ

行くがよい! 死がそなたの頭上にあり、
不名誉がそなたの名にふりかかる。
私の怒りがそなたに用意したのは
墓石を暖める涙もないそのような墓所、
そこでそなたの朽ちた遺骸は
混り合う……そう! 混り合うのだ。以下繰り返し

Donizetti: Lucrezia Borgia
LUCREZIA

8 Com'è bello! Quale incanto
in quel volto onesto e altero!
No, giammai leggiadro tanto
non se'l pinse il mio pensiero.
L'alma mia di gioia è piena
or che alfin lo può mirar.
Mi risparmi, o ciel, la pena,
ch'ei mi debba un dì sprezzar.
Se il destassi? No, non oso —
nè scoprire il mio sembiante.
Pure il ciglio lagrimoso
terger debbo — un solo istante.

ALFONSO

Vedi? È dessa.

RUSTIGHELLO

È dessa — è vero.

ALFONSO

Chi è il garzone?

RUSTIGHELLO

Un venturiero.

ALFONSO

Non ha patria?

RUSTIGHELLO

Nè parenti.

Ma è guerrier fra i più valenti.

ALFONSO

Di condurlo adopra ogn'arte
a Ferrara in mio poter.

ドニゼッティ《ルクレツィア・ボルジア》
ルクレツィア

何と美しい! 汚れを知らない高貴な顔だち。
うっとりしてしまう顔、私の心にこんなにうれしい気持ちが
湧いたことがありますか。
やっと彼に会えた
私の心はよろこびに充たされました。
神様、いつの日か彼に軽べつされるであろう
私の罪を少しでも軽くして下さい。
彼が目を感じたら? いいえとんでもない、
私の顔を彼にみられてはなりません。
そして私のまつげは
涙にぬれてはならないのです。
たとえ一瞬でも。

アルフォンソ

見たか? 彼女だ。

ルスティゲッロ

あのお方です——本当に。

アルフォンソ

あの青年はだれだ?

ルスティゲッロ

やとわれ兵です。

アルフォンソ

祖国はないのか?

ルスティゲッロ

両親ありません。

然し最も勇敢な戦士です。

アルフォンソ

如何なる計略にてもよろしい、
彼を私の支配下のフェアララにつれて来い。

RUSTIGHELLO

Con Grimani all'alba ei parte —
ei previene il tuo pensier.

LUCREZIA

Mentre geme il cor sommessò,
mentre piango a te d'appresso,
dormi, e sogna, o dolce oggetto,
sol di gioia e di diletto.

Ed un angiol tutelare
non ti desti che al piacer!

Triste notti e veglie amare
debbo sola sostener.

Gioie sogna, ed un angiol
non ti desti che al piacer.

Bellini: Norma

NORMA

9 Deh! con te, con te li prendi.

Li sostieni, li difendi...

Non ti chiedo onori e fasci;
a' tuoi figli ei fian serbati;
prego sol che i miei non lasci
schiavi, abbiatti, abbandonati...

Basti a te che disprezzata,
che tradita io fui per te.
Adalgisa, deh! ti mova

ルスティゲッロ

彼はグリマーニに随行して明朝出発します。
もうあなたの意志通りになります。

ルクレツィア

あなたのそばで私の心はうめき、
顔は涙にぬれています。

けれどいとしいあなたは夢をみながらねむっていて下さい。
その夢はたのしいものでなければいけません。

あなたをまもる天使はゆかいなことのためにだけ
あなたの目を覚ませるでしょう。

悲しい夜、ねむれぬ苦しみ、
それは私だけでたくさんです。

たのしい夢、そしてゆかいなことのためにだけ
天使はあなたの目を覚ませるでしょう。

(訳:小野桃代)

ベッリーニ《ノルマ》

ノルマ

ああ! あなたといっしょに、あなたといっしょに

あの子たちを連れて行って下さい。

あの子たちの力になってやって下さい。守ってやって下さい
.....

私は、名誉も権力も求めません:
この子たちを、あなたの子供として育てていただきたいのです。

私はただ、私の子供たちが、みじめで、
不幸な奴隷にされないように、お願いするだけなのです.....

私は、あなたのために裏切られ、
軽蔑されたというだけで十分です。

アダルジーザ、ああ、私の心の激しい苦悩に、

tanto strazio del mio cor.

ADALGISA

Norma! ah! Norma, ancor amata,
madre ancora sarai per me.

Tienti i figli. Ah, non fia mai
ch'io mi tolga a quese arene.

NORMA

Tu giurasti...

ADALGISA

Sì, giurai...

ma il tuo bene, il sol tuo bene.

Vado al campo ed all'ingrato
tutti io reco i tuoi lamenti.

La pietà che m'hai destato
parlerà sublimi accenti.

Spera, ah, spera... amor, natura

ridestarsi in lui vedrai...

del suo cor son io sicura,

Norma ancor vi regnerà.

Norma, spera, nel suo core

Norma ancor vi regnerà.

NORMA

Ch'io lo preghi? Ah no, giammai!

Ah no!

ADALGISA

Norma, ti piega.

NORMA

No, più non t'odo. Parti... va.

あなたは心を動かしてくれるでしょう。

アダルジーザ

ノルマ! ああ! ノルマ、もう一度
愛する、私の母としていらして下さい。

お子たちといっしょにいらして下さい。ああ、私は
この土地を離れるのはいやでございます。

ノルマ

あなたは誓いました.....

アダルジーザ

はい、誓いました.....

だけどそれはあなたの幸福、ただあなたの幸福のために、
私は陣営に行き、あなたのお歎きをすっかり

恩知らずの男に話してやりましょう。

あなたが私の心中に呼びさました愛情を
崇高なことばで、話してまいりましょう。

希望を、ああ、希望をお持ち下さい.....愛が、本来の心が、
あの方に

目ざめるのをご覧になるでしょう.....

それはたしかでございます。

ノルマはもう一度支配なさるでしょう。

ノルマ、あの方の心に希望をお持ち下さい。

ノルマはもう一度支配なさるでしょう。

ノルマ

あのひとに懇願しろというの? ああ、とてもだめ!

それはできません。

アダルジーザ

ノルマ、お譲りなさいまし。

ノルマ

いいえ、もうあなたのいうことは聞きたくありません。

お退りなさい.....さあ。

ADALGISA

Ah! no, giammai, no, ah! no.
Mira, o Norma, a'tuoi ginocchi
quest cari tuoi pargoletti.
Ah! pietade di lor ti tocchi
se non hai di te pietà.

NORMA

Ah! perchè la mia costanza
vuoi scemar con molli affetti?
Più lusinghe, ah, più speranza,
ah! presso a morte un cor non ha.

ADALGISA

Mira questi...

NORMA

Ah! perchè la vuoi scemar, ah! perchè?

ADALGISA

... cari pargoletti, questi cari, ah! li vedi!

NORMA

Ah perchè la mia costanza, ecc.

ADALGISA

Mira, o Norma, a'tuoi ginocchi, ecc.

ADALGISA

Cedi... deh cedi!

NORMA

Ah! lasciami Ei t'ama.

ADALGISA

Ei già sen pente.

アダルジーザ

ああ! いいえ、いやです。いや、ああ! いやです。
おお、ノルマよ、ご覧なさい。あなたの
ひざ元にいるこれらのかわいらしい子供たちを、
ああ! あなたご自身にあわれみを、
お持ちにならないとしても、お子たちをあわれとお思いにな
らなければ。

ノルマ

ああ! あなたはなぜ、やさしい心で、
私の覚悟を弱めようとするのですか?
少しの夢もない、少しの希望もない、ああ、
死のうとしている心には、なにもならない。

アダルジーザ

お子たちをご覧なさいませ……

ノルマ

ああ! なぜあなたは弱めようとするの。ああ! なぜ?

アダルジーザ

……かわいなお子たちを、これらのかわいらしい、
ああ! お子たちをご覧なさい!

ノルマ

ああ! なぜ私の決心を、etc.

アダルジーザ

おお、ノルマよ、ご覧なさい。あなたのひざ元に、etc.

アダルジーザ

意地を捨てて……ああ、お譲りなさいませ!

ノルマ

ああ! 私にかまわないで、あの人はあなたを愛しています。

アダルジーザ

あのひとはすでに後悔しております。

NORMA

E tu?

ADALGISA

L'amai... quest'anima
sol l'amistade or sente.

NORMA

O giovinetta! E vuoi?...

ADALGISA

Renderti i dritti tuoi,
o teco al cielo, agli uomini
giuro celarmi ognor.

NORMA

Si... hai vinto... abbracciami.

Trovo un'amica ancor.

NORMA, ADALGISA

Si, fino all'ore estreme
compagna tua m'avrai;
per ricovrarci insieme
ampia è la terra assai.

Teco del fato all'onte

ferma opporrò la fronte,
finchè il tuo core a battere
io senta sul mio cor.

Ah! Si, fino all'ore, ecc.

ノルマ

それであなたは?

アダルジーザ

愛しております……でも今、私の心は、
ただ友情を感じているだけでございます。

ノルマ

おお、愛すべき乙女よ! それであなたはとうとうと?……

アダルジーザ

あなたの権利を、あなたにお返しします。
あなたといっしょに、永久に、天からも、
男の人からもすべて、身をかくそうと誓います。

ノルマ

そうです……あなたは勝ちました……私を抱擁して下さい!

私はまた真の友だちを見いだしました。

ノルマ、アダルジーザ

そう、私たちの最後の時まで、
私はあなたの仲間として過ごしましょう。
この大地は、私たちふたりをかくすには、
十分なほど、広いのですから
あなたといっしょに運命に直面し、
敢然と面をあげて戦いましょう。
あなたの心臓の動悸が動く限り、
それを私の心臓も感じるでしょう。
ああ! そうです。最後の時まで、etc.

(訳:鈴木松子)

Bellini: I Puritani**ELVIRA**

10 La dama d'Arturo.....

CORO

La misera è pallida.....

ELVIRA

È in bianco velate.....

CORO

È immobile e squallida.....

ELVIRA

La guarda e sospira

Sua sposa la chiama.

Elvira è la dama?

Non sono più Elvira?

La dama?

TUTTI

Ciel!

ELVIRA

Arturo!

Ahimè!

TUTTI

Elvira! che dici?

ELVIRA

Io Elvira? No! No!

CORO

Ti scuoti o Elvira.

Demente vivrà,

Dolente morrà.

(*Elvira nel suo delirio, crede vedere Arturo.*)

ベッリーニ《清教徒》**エルヴィーラ**

アルトゥーロの奥方.....

合唱

可愛そうな娘は青ざめている.....

エルヴィーラ

純白のヴェールに包まれ.....

合唱

身動きもせず、蒼ざめて.....

エルヴィーラ

彼はため息をつきながら、彼女を眺め

彼女を彼の花嫁と呼びます。

エルヴィーラがその妻でしょうか?

もう私はエルヴィーラではないのでしょうか?

その奥方ではないのでしょうか?

一同

神様?

エルヴィーラ

アルトゥーロ!

ああ悲しい!

一同

エルヴィーラ、あなたは何を云いましたか?

エルヴィーラ

私がエルヴィーラ? いいえ! いいえ!

合唱

おお、エルヴィーラ、気を確かに持って下さい。

彼女は気がちがったようだ、

悲しみに死んでしまったようだ。

(錯乱状態のエルヴィーラは、アルトゥーロに会っている
と思っている)

ELVIRA

Arturo! Tu ritorni?

T'appressa.....ancor.....Ah vieni!

(*Declamato con tutto lo slancio d'un core
innocente contento.*)

Oh vieni al tempio — fedele Arturo,

Eterna fede — mio ben ti giuro!

Com'oggi è puro — sempre avrò il cor.

Con te vivrò d'amor — d'amor morirò.

BRUNO e CORO

Oh ciel pietà!

RICCARDO e GIORGIO

Oh come ho l'anima triste e dolente

Udendo i pianti dell'innocente.

Fia sempre infame il traditor

Che in tante pene lascia quel cor.

CORO

Si crede all'ara, giura ad Arturo

Ella si fida, ei si spergiuro,

Ella si pura, ei traditore.

TUTTI

Misera figlia, morrà d'amor!

RICCARDO

Sì, più la miro, ho più doglia profonda

E più l'anima s'accende in amor:

Ma più avvampa tremendo il furore

Contro chi tanto ben m'involò!

エルヴィーラ

アルトゥーロ! 帰って来て下さったの?

傍に来て……もつと……ああ、いらしてよ!

(*清らかな満足の激しい興奮をもって*)

おお、教会堂にまいります——誠実なアルトゥーロ、
愛する方よ、私はあなたに永遠の貞節を誓います!
今、純潔であるように——私の心はいつも純潔でござ
います。

私はあなたと御一緒に愛に生き——愛に死ぬでござ
いましょう。

ブルーノと合唱

神よ、み恵みを!

リッカルドとジョルジョ

おお、この罪なきものの嘆きを聞いて

私の心はなんと悲しみ悩むことか。

彼女の心に多くの苦痛を残した裏切り者は

いつまでも憎まれるように。

合唱

彼女は自分が祭壇に居ると信じています、

彼女は不実なアルトゥーロに誠実を誓っています。

彼女は全く純潔ですし、彼は裏切り者です。

一同

気の毒な娘、彼女は愛に死ぬでしょう!

リッカルド

私が考える以上に、私の心の苦痛は深いのだ

そして魂は一層激しく恋に燃えている:

然し私の怒りの炎は更に恐ろしく燃え上り、

私の愛する人を盗んだ彼に向っている!

GIORGIO

Dio di clemenza, t'offro mia vita
Se all'innocenza giovì d'aita.

Deh sii clemente a un puro core.

La mia prece pietosa e profonda

Che a te vien sui sospir del dolor,

Tu clemente consola, o Signore,

Per la vergin cui l'empio immolò.

ELVIRA

Ma tu già mi fuggi? crudele, abbandoni

Chi tanto t'amò! Ah crudel!

BRUNO, RICCARDO, GIORGIO e CORO

Ahi! dura sciagura

Ahi lutto e dolore!

Si bella, si pura

Del ciel creatura.....

Ah sia maledetta

La coppia rea.

La figlia avrà vendetta.

Ah sia maledetta la coppia fuggente

Vendetta cadrà sui via traditor.

Si.

Non casa, non spiaggia — raccolga i fuggenti!

In odio del cielo — in odio ai viventi;

Battuti dai venti — da orrende tempeste.

Le odiate lor teste — non possan posar.

Erranti, piangenti — in orrida guerra,

Col cielo, la terra — il mar, gli elementi:

ジョルジヨ

寛容の神よ、若しこの瀆れなき娘を

助けることが出来ますならば、私の生命をお与下さい。

ああ、あの純潔なる心に寛容でありますように。

私の憐れに深い祈りが

悲嘆の息吹によって、神の御許に届きますように、

おお、神よ、酷き犠牲となれる乙女に

慈悲を垂れ、慰め給え。

エルヴィーラ

だけどあなたはもう私からお逃げになりましたの？ 残酷な方、

こんなにあなたを愛している私を見棄てるなんて！

ああ、なんて残酷な！.....

ブルーノ、リッカルド、ジョルジヨと合唱

ああ、きびしい不幸

ああ、悲しみと悩み！

それ程美しく、それ程清純な

神の愛児.....

ああ、彼等の邪悪な一組の男女が

呪われますように。

娘が復讐致しますように。

逃走した一組の男女が呪われますように

悪辣な裏切り者に復讐が下りますように。

そうだ。

家も海岸も——逃亡者を受入れないように！

天の憎みによって——人間の憎みによって：

風によって——恐ろしき嵐によって

打て——彼等が生きて発見されないように。

恐ろしい戦いの中に——さすらい、涙を流し、

天と地と共に——海と風と：

Ognor maledetti — in vita ed in morte,

Sia eterna lor sorte — eterno il penar.

ELVIRA

Qual febbre vorace

M'uccide, mi sface.

Ah.....qual fiamma, qual' ira

M'avvampa!

Fantasmì perversi

Fuggite dispersi,

O intanto furor

Sbrantatemi il cor,

Si!

Qual febbre vorace, ecc.

生も死も——永遠に呪われよ、

彼等の運命は永遠に——永遠に苦悩あれ。

エルヴィーラ

なんとまあ激しい熱のように

私を殺し、私をすりへらしたとか。

ああ……なんとまあ炎のように怒りのように

私を焼きつくしたとか！

よこしまな女よ

私から立ち去っておくれ、

おお、お前の怒りで

私の心を引き裂いておくれ。

そうよ！

なんとまあ激しい熱で、etc.

(訳:鈴木松子)

R. Strauss: Ariadne auf Naxos**ZERBINETTA**

〈アリアドネーに深くお辞儀をして、語りはじめる〉

11 Großmächtige Prinzessin, wer verstünde nicht,

Daß so erlauchter und erhabener Personen

Traurigkeit

Mit einem anderen Maß gemessen werden muß

Als der gemeinen Sterblichen. — Jedoch

〈一歩近づいて。ただしアリアドネーは、いささかも彼女に気を取られない〉

Sind wir nicht Frauen unter uns,

und schlägt denn nicht

In jeder Brust ein unbegreiflich, ein

unbegreiflich Herz?

〈もう一度近づいて、脚礼をする。アリアドネーは彼女に気を取られずに、顔を蔽う〉

R. シュトラウス《ナクソス島のアリアドネ》**ツェルビネッタ**

やんごとないお姫さま、よくわかっております

——身分の高いかたがたの憂い悲しみは

違った尺度で測られなくてはなりません、

賤しい人間の場合とは。——でもね、

わたしたちはおたがいに女でしょう、だれの胸にも不

思議な女心が脈打っているでしょう？

Von unserer Schwachheit sprechen,
Sie uns selber eingestehen,
Ist es nicht schmerzlich süß?
Und zuckt uns nicht der Sinn danach?
Sie wollen mich nicht hören —
Schön und stolz und regungslos,
Als wären Sie die Statue auf Ihrer
eigenen Gruft —

Sie wollen keine andere Vertraute
Als diesen Fels und diese Wellen haben?

(アリアドネーは洞穴の入口の方へ退く)

Prinzessin, hören Sie mich an — nicht Sie allein,
Wir alle — ach, wir alle — was Ihr Herz erstarrt,
Wer ist die Frau, die es nicht durchgelitten hätte?
Verlassen! in Verzweiflung! ausgesetzt!
Ach, solcher wüsten Inseln sind unzählige
Auch mitten unter Menschen, ich — ich selber
Ich habe ihrer mehrere bewohnt —
Und habe nicht gelernt, die Männer zu verfluchen.

(アリアドネーは完全に洞穴のなかへ退く。ツェルビネッタはこれ以後、姿の見えなくなった相手に慰めの言葉をかける)

Treulos — sie sind's!
Ungeheuer, ohne Grenzen!
Eine kurze Nacht,
Ein hastiger Tag,
Ein Wehen der Luft,
Ein fließender Blick
Verwandelt ihr Herz!
Aber sind wir denn gefeit
Gegen die grausamen — entzückenden,
Die unbegreiflichen Verwandlungen?

女の弱さを口に出し、
それを自分で認めるのは、
悲しくも甘いことではないかしら?
わたしたちの気持をそそることででは?
わたしの言うことを聞くこともなさらない——
美しく誇り高く身動きせず、
まるで自分の墓に立つ石像のように——

あなたの親しい話相手はただ
この岩と波だけだとおっしゃるの?

お姫さま、聞いてくださいな——あなただけじゃなく、わた
したちは——みんな同じ——あなたの心の苦しみを、
女であればみんな悩みぬいたはずですわ!
捨てられたり、絶望にさらされたり!
ええ、こんな離れ小島は数かぎりなくある、
おおぜい人間のいるところにも——そう、わたしだって、
なんども離れ小島に住んだことがある——
でもけっして、男を恨むつもりはありませんわ!

不誠実よ——男たちは!
怪物よ——底なしに!
短い一夜、
あわただしい一日、
風のひと吹き、
ちらっとひと目——
それでもう心変りする!
でも女は負けないかしら、
残忍な——そのくせすてきな、
不可思議な心変りの誘惑に?

Noch glaub' ich dem einen ganz mich gehörend,
Noch mein ich mir selber so sicher zu sein,
Da mischt sich im Herzen leise betörend
Schon einer nie gekosteten Freiheit,
Schon einer neuen verstohlenen Liebe
Schweifendes freches Gefühle sich ein!
Noch bin ich wahr, und doch ist es gelogen,
Ich halte mich treu und bin schon schlecht,
Mit falschen Gewichten wird alles gewogen —
Und halb mich wissend und halb im Taumel
Betrüg' ich ihn endlich, betrüg' ich ihn endlich
Und lieb' ihn noch recht!

Noch mein' ich mir selber so sicher zu sein,
Da mischt sich im Herzen leise betörend
Schon einer neuen verstohlenen Liebe...
Ja, halb mich wissend und halb im Taumel
Betrüge ich endlich und liebe noch recht!
So war es mit Pagliazzo
Und mit Mezzetin!

Dann war es Cavicchio,
Dann Burattin,
Dann Pasquariello!
Ach, und zuweilen,
Will es mir scheinen,
Waren es zwei!
Doch niemals Launen,
Immer ein Müssen!
Immer ein neues
Beklommenes Staunen.
Daß ein Herz so gar sich selber nicht versteht,

わたしだって、1人の男のものだと信じて、
自分の気持は大丈夫だと思いこんでいる、
ところが心のなかでは魔薬のように、
一度も味わったことのない自由や
新しい秘めやかな恋愛の、
軽率で不敵な感情が入りまじっているわ!
まだ正直なつもりなのに嘘つきで、
誠実だと思っているけれど悪い女なの、
狂った天秤ですべてを測る——
半分は自覚し、半分は夢中で、
結局は男を騙すが、男を騙すが、
わたしはまだ愛しているの!
自分の気持は大丈夫だと思いこんでいる。
ところが心のなかでは魔薬のように、
新しい秘めやかな恋愛の……
半分は自覚し、半分は夢中で、
男を騙すが、まだ愛しているの!
相手の名はバリアッチョ、
あるいはメツツェティーノ!
おつぎはカヴィッキョ、
そしてブラッティーノ、
そしてバスクアリエルロ!
ええ、ときには
なんだか、同時に
2人だったわ!
でも浮気じゃない、
いつも真剣!
いつも新しい
とまどった驚き。
女はまるっきり自分で

Gar sich selber nicht versteht!
Als ein Gott kam jeder gegangen,
Und sein Schritt schon machte mich stumm,
Küßte er mir Stirn und Wangen,
War ich von dem Gott gefangen
Und gewandelt um und um!
Als ein Gott kam jeder gegangen,
Jeder wandelte mich um,
Küßte er mir Mund und Wangen,
Hingegeben war ich stumm!
Als ein Gott kam jeder gegangen,
Jeder wandelte mich um,
Küßte er mir Stirn und Wangen,
War ich von dem Gott gefangen,
Hingegeben war ich stumm!
Hingegeben, ah!
Kam der neue Gott gegangen,
Hingegeben war ich stumm, stumm...

〈姿の見えないエーコーが、このロンドをくり返す。ただし歌詞なしに、アドリブで〉

自分の心がわからないのね!
神さまのようにどの男もやって来た、
その足音はわたしを黙らせたわ。
男に額や頬をキスされると、
わたしは神さまに捕えられ、
すっかり生まれ変わったわ!
神さまのようにどの男もやって来た、
わたしを生まれ変らせたわ。
男に唇や頬をキスされると、
わたしは黙って身を捧げたわ!
神さまのようにどの男もやって来た
わたしを生まれ変らせたわ。
男に額や頬をキスされると
わたしは神さまに捕えられ、
わたしは黙って身を捧げたわ!
身を捧げたわ、ああ!
新しい神さまがやって来ると、
わたしは黙って身を捧げたわ!

(訳:内垣啓一)

WIENER STAATSOPER LIVE

Herausgegeben von der Wiener Staatsoper GmbH
Artistic Supervision: Michael Blees · Gottfried Kraus
Aufnahmen des Österreichischen Rundfunks **ORF**
Aus dem Archiv der Wiener Staatsoper
Aufnahmeleitung · Recording Supervision · Directeur de l'enregistrement: N.N.
Toningenieur · Recording Engineer · Ingénieur du son: N.N.
Digital Remastering: Ton Eichinger · Restaurierung und Schnitt: Harald Huber
Sound Design: Othmar Eichinger
Redaktion · Literary Editing · Rédaction: Christiane Delank · Sebastian Staus
Bildnachweis innen: Wiener Staatsoper/Axel Zeininger/Foto Fayer/Barbara Palffy/
Franz Hausmann/TerryWien
Cover-Foto: Fayer (Ariadne 1996)
Cover-Design: Atelier Langenfass, Ismaning

www.orfeo-international.com

© 2011 ORFEO International Music GmbH, München · Trademark(s) Registered



【取り扱い上のご注意】●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。【保管上のご注意】●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。